

Y a m e

八女市内遺跡群 1 1

福岡県八女市酒井田所在遺跡の調査報告書

八女市文化財調査報告書 第118集

2017

八女市教育委員会

Y a m e

八女市内遺跡群 1 1

福岡県八女市酒井田所在遺跡の調査報告書

八女市文化財調査報告書 第118集

2017

八女市教育委員会

序

昭和57年度から開始されました八女南部地区県営圃場整備事業の進展に伴い、昭和60年度から当教育委員会では事業地内の埋蔵文化財発掘調査を進めてまいりました。

その結果、弥生時代を中心として貴重な遺跡が発見され、この地域の文化を考える上で重要な成果をあげることができました。

本書は、平成3年度発掘調査を実施した酒井田地区に所在する石町遺跡・鳥井遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書です。

発掘調査にあたりまして、終始ご協力いただきました福岡県、福岡県八女県土整備事務所、地元行政区、福岡県教育委員会をはじめ関係各位に深く感謝申し上げます。

平成29年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西 島 民 生

例 言

- 1 本書は、八女市酒井田字石町・宇鳥井の所在遺跡における発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、八女市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査で検出した遺構の名称・番号については、平成3年度の調査時に準じて付している。
- 4 本書に使用した現地測量図については、平成3年度に実施された発掘調査当時の参加者で作成している。出土遺物の実測図作成については、旧岩戸山歴史資料館において実施されている。
- 5 本書に使用した現地写真は、中川が撮影している。出土遺物の撮影については、旧岩戸山歴史資料館において多賀が撮影した。
- 6 本書使用の方位については、すべて磁北を基準としている。
- 7 本書の執筆及び編集については、中川が行った。執筆するにあたり、平成4年に刊行されている埋蔵文化財調査概報（八女市文化財調査報告書第23集）を参考とした。
- 8 本書に関する調査記録及び出土遺物は、旧岩戸山歴史資料館において保管・收藏している。

本文目次

1 はじめに	1
2 位置と環境	2
3 各遺跡の調査概要	5
(1) 石町遺跡	
① 発掘調査の概要	
② 遺構と遺物	
③ まとめ	
(2) 鳥井遺跡	
① 発掘調査の概要	
② 遺構と遺物	
③ まとめ	

挿図目次

第1図	石町遺跡・鳥井遺跡と周辺の遺跡分布図 [1/25,000]	3
第2図	石町遺跡・鳥井遺跡位置図 [1/5,000]	4
第3図	石町遺跡 遺構配置図 [1/400]	5
第4図	石町遺跡 掘立柱建物 (SB01) 実測図 [1/80]	6
第5図	石町遺跡 掘立柱建物 (SB02) 実測図 [1/80]	7
第6図	石町遺跡 掘立柱建物 (SB03) 実測図 [1/80]	8
第7図	石町遺跡 掘立柱建物 (SB04) 実測図 [1/80]	9
第8図	石町遺跡 掘立柱建物 (SB05) 実測図 [1/80]	10
第9図	石町遺跡 掘立柱建物 (SB13) 実測図 [1/80]	11
第10図	石町遺跡 竪穴住居 (SB06) 実測図 [1/60]	12
第11図	石町遺跡 竪穴住居 (SB07) 実測図 [1/60]	13
第12図	石町遺跡 竪穴住居 (SB08) 実測図 [1/60]	14
第13図	石町遺跡 竪穴住居 (SB09) 実測図 [1/60]	15
第14図	石町遺跡 竪穴住居 (SB10) 実測図 [1/60]	16
第15図	石町遺跡 竪穴住居 (SB11) 実測図 [1/60]	17
第16図	石町遺跡 竪穴住居 (SB12) 実測図 [1/60]	17
第17図	石町遺跡 竪穴住居 (SB14) 実測図 [1/60]	17
第18図	石町遺跡 土壌 (SK01) 実測図 [1/40]	19
第19図	石町遺跡 土壌 (SK02) 実測図 [1/40]	19
第20図	石町遺跡 土壌 (SK03) 実測図 [1/40]	20
第21図	石町遺跡 土壌 (SK04) 実測図 [1/40]	20
第22図	石町遺跡 土壌 (SK05) 実測図 [1/40]	21
第23図	石町遺跡 土壌 (SK06) 実測図 [1/40]	21
第24図	石町遺跡 土壌 (SK07) 実測図 [1/40]	22
第25図	石町遺跡 土壌 (SK08) 実測図 [1/40]	22
第26図	石町遺跡 土壌 (SK09) 実測図 [1/40]	23
第27図	石町遺跡 土壌 (SK10) 実測図 [1/40]	24
第28図	石町遺跡 土壌 (SK11) 実測図 [1/40]	24
第29図	石町遺跡 土壌 (SK12) 実測図 [1/40]	25
第30図	石町遺跡 土壌 (SK13) 実測図 [1/40]	26
第31図	石町遺跡 土壌 (SK14) 実測図 [1/40]	27
第32図	石町遺跡 土壌 (SK15) 実測図 [1/40]	28
第33図	石町遺跡 土壌 (SK16) 実測図 [1/40]	28
第34図	石町遺跡 土壌 (SK17) 実測図 [1/40]	28

第35図	石町遺跡	土壇 (SK19) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	28
第36図	石町遺跡	井戸 (SE01) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	29
第37図	石町遺跡	井戸 (SE02) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	29
第38図	石町遺跡	溝 (SD03) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	30
第39図	石町遺跡	掘立柱建物 (SB03・04・05)、堅穴住居 (SB08・09・10・14) 出土土器 実測図 [1/4]	・ ・ ・ ・ ・	32
第40図	石町遺跡	土壇 (SK09・17・19) 出土土器実測図 [1/4]	・ ・ ・ ・ ・	32
第41図	石町遺跡	溝 (SD01) ①出土土器実測図 [1/4]	・ ・ ・ ・ ・	33
第42図	石町遺跡	溝 (SD01) ②出土土器実測図 [1/4]	・ ・ ・ ・ ・	33
第43図	石町遺跡	溝 (SD01) ③出土土器実測図 [1/4]	・ ・ ・ ・ ・	34
第44図	石町遺跡	溝 (SD01) ④出土土器実測図 [1/4]	・ ・ ・ ・ ・	34
第45図	石町遺跡	溝 (SD02・03・04)、ピット (P05・10・19・99・117・120) 出土土器 実測図 [1/4]	・ ・ ・ ・ ・	35
第46図	石町遺跡	土製品 (SB10)、鉄器 (SD01)、石器 (SD02) 実測図 [1/2、1/1]	・ ・ ・	35
第47図	鳥井遺跡A地点	遺構配置図 [1/200]	・ ・ ・ ・ ・	41
第48図	鳥井遺跡A地点	堅穴住居 (SB01) 実測図 [1/60]	・ ・ ・ ・ ・	42
第49図	鳥井遺跡A地点	土壇 (SK01) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	43
第50図	鳥井遺跡A地点	溝 (SD01) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	43
第51図	鳥井遺跡B地点	遺構配置図 [1/200]	・ ・ ・ ・ ・	44
第52図	鳥井遺跡B地点	土壇 (SK01) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	45
第53図	鳥井遺跡B地点	土壇 (SK02) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	45
第54図	鳥井遺跡B地点	土壇 (SK03) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	45
第55図	鳥井遺跡B地点	土壇 (SK04) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	45
第56図	鳥井遺跡B地点	土壇 (SK05) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	46
第57図	鳥井遺跡B地点	土壇 (SK06) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	46
第58図	鳥井遺跡B地点	土壇 (SK07) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	46
第59図	鳥井遺跡B地点	土壇 (SK08) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	46
第60図	鳥井遺跡B地点	土壇 (SK09) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	46
第61図	鳥井遺跡B地点	溝 (SD01) 実測図 [1/40]	・ ・ ・ ・ ・	47
第62図	鳥井遺跡C地点	遺構配置図 [1/200]	・ ・ ・ ・ ・	47
第63図	鳥井遺跡A地点	堅穴住居 (SB01) 出土土器実測図 [1/4]	・ ・ ・ ・ ・	48

表 目 次

表 1	石町遺跡 SB・SK・SD・ピット 出土土器観察表①～③	37～39
表 2	石町遺跡 SB・SD 出土遺物観察表	40
表 3	鳥井遺跡A地点 SB 出土土器観察表	48

図 版 目 次

図版 1

- (1) 石町遺跡 全景（東から）

図版 2

- (1) 石町遺跡 SB01（北から）
- (2) 石町遺跡 SB02（南から）、SK19（手前）
- (3) 石町遺跡 SB03（南から）

図版 3

- (1) 石町遺跡 SB04（南から）
- (2) 石町遺跡 SB05（南から）
- (3) 石町遺跡 SB13（東から）

図版 4

- (1) 石町遺跡 SB06（西から）
- (2) 石町遺跡 SB07（南から）
- (3) 石町遺跡 SB08（南から）

図版 5

- (1) 石町遺跡 SB09（西から）
- (2) 石町遺跡 SB10（西から）
- (3) 石町遺跡 SB11（南から）

図版 6

- (1) 石町遺跡 SB09カマド（西から）
- (2) 石町遺跡 SK01（北東から）
- (3) 石町遺跡 SK02（北東から）
- (4) 石町遺跡 SK03（北から）
- (5) 石町遺跡 SK04（北から）
- (6) 石町遺跡 SK05（北から）
- (7) 石町遺跡 SK08（西から）
- (8) 石町遺跡 SK09（北から）

図版 7

- (1) 石町遺跡 SK10（北から）
- (2) 石町遺跡 SK11（西から）
- (3) 石町遺跡 SK12（南から）

- (4) 石町遺跡 SK13 (南から)
- (5) 石町遺跡 SK14 (西から)
- (6) 石町遺跡 SE02 (北東から)
- (7) 石町遺跡 SD01遺物出土状況
- (8) 石町遺跡 作業風景

図版 8

- (1) 鳥井遺跡A地点 全景 (西から)
- (2) 鳥井遺跡A地点 SB01 (東から)
- (3) 鳥井遺跡A地点 SD01 (東から)

図版 9

- (1) 鳥井遺跡A地点 SB01カマド (南から)
- (2) 鳥井遺跡A地点 SK01 (西から)
- (3) 鳥井遺跡B地点 SK01 (北から)
- (4) 鳥井遺跡B地点 SK02、03 (北東から)
- (5) 鳥井遺跡B地点 SK04 (南東から)
- (6) 鳥井遺跡B地点 SK05 (南から)
- (7) 鳥井遺跡B地点 SK06 (南から)
- (8) 鳥井遺跡B地点 SK08 (南西から)

図版10～12 遺物写真

1 はじめに

平成3年度の八女南部地区県営圃場整備事業は、八女南部地区分として、八女市緒玉地区を中心とした9ha、八女南部第2地区分として、八女市酒井田地区中心の21.4haの事業が計画された。

これに先立って、平成2年11月に当該地の試掘調査を実施し、事業地内の埋蔵文化財の把握に努めながら、八女市・福岡県教育委員会・八女南部土地改良区・福岡県筑後川水系農地開発事務所と協議を重ねながら、事業地内において削平や掘削を受ける部分について発掘調査を実施した。

本報告書の調査・報告書に関わる関係者は次のとおりである。

【平成3年度】（現地調査時）

〔調査主体〕八女市教育委員会

教育長	坂田 不二夫
教育部長	松延 繁太
社会教育課課長	大月 重信
同 係長	下川 文比古
同 係員	平嶋 芳子
同 係員	井上 富雄
同 係員	井手 勇一
同 係員	赤崎 敏男（調査担当）
同 係員	大塚 恵治
同 嘱託	中川 寿賀子（調査担当）

〔事業主体〕

八女南部土地改良区	
理事長	角 實雄
事務局長	政次 春男
事務局次長	栗原 昭
事務局員	金納 三枝子
八女南部第2土地改良区	
理事長	近藤 義竹
事務局長	片岡 孝行
事務局員	秋山 由美

【平成28年度】（本報告刊行時）

〔調査主体〕八女市教育委員会

教育長	西島 民生
新社会推進部 部長	室園 哲也
文化振興課 課長	栗秋 克彦
文化財保護係 係長	中川 寿賀子（整理・報告書担当）
同 係員	永田 寧
同 係員	檀 佳克
同 係員	渡辺 真弓
同 嘱託	多賀 晴司

2 位置と環境

八女市南部地区県営圃場整備事業の実施地区は、旧八女市市街地の南部にあり、南側を流れる矢部川によって形成された肥沃な沖積平野が一面にわたって広がっている。平野は、東側から西側に向かって緩やかに高さを減じているが、ほぼ平坦地であり大半が水田や畑地として利用されている。

平野部は、北側に東西に長く連なる八女丘陵と、平野から派生した台地からなっている。八女丘陵上には、国指定史跡岩戸山古墳をはじめ11基の前方後円墳と約300基の古墳が点在しており、八女古墳群と呼ばれている。台地上や縁辺部には、弥生前期から後期にかけての集落や、墓地が営まれており、室岡遺跡群（亀ノ甲遺跡・山ノ上遺跡・北小路遺跡）等は、代表的な遺跡である。

平成3年度八女南部地区及び八女南部第2地区県営圃場整備事業は、矢部川によって形成された沖積平野の右岸地区の酒井田・緒玉地区を中心として実施された。

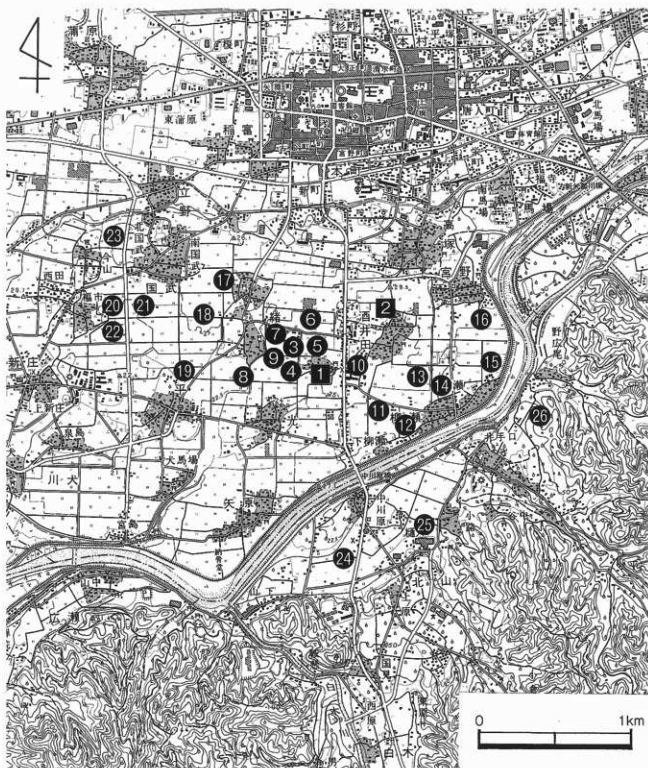
酒井田地区は、境田とも書き前述したように矢部川が形成した扇状地に位置する。地名の由来については不詳である。本地区西部の台地には天平年間（728～749）僧行基の開基と伝えられる廃寺となった光明寺跡があり、建保5年（1217）鎮西聖光上人が浄土宗48か寺の最初の寺として再興したとされる。戦国期の天正年間（1573～1593）に戦乱に逢い焼失。慶長年間に福島町（現・八女市本町）無量寿院開基のため光明寺古資材を使用して移る。

また、周辺には圃場整備事業の進展に伴って、多くの遺跡の発掘調査が実施され、平成2年度に調査が実施された新庄地区の「原ノ前遺跡」、酒井田地区の「京田遺跡第1次調査」、「二反田遺跡」、宮ノ前遺跡、緒玉地区の「宿町遺跡」、「水洗遺跡」（弥生時代中期～後期の集落跡）等が発見されている。

【参考文献】

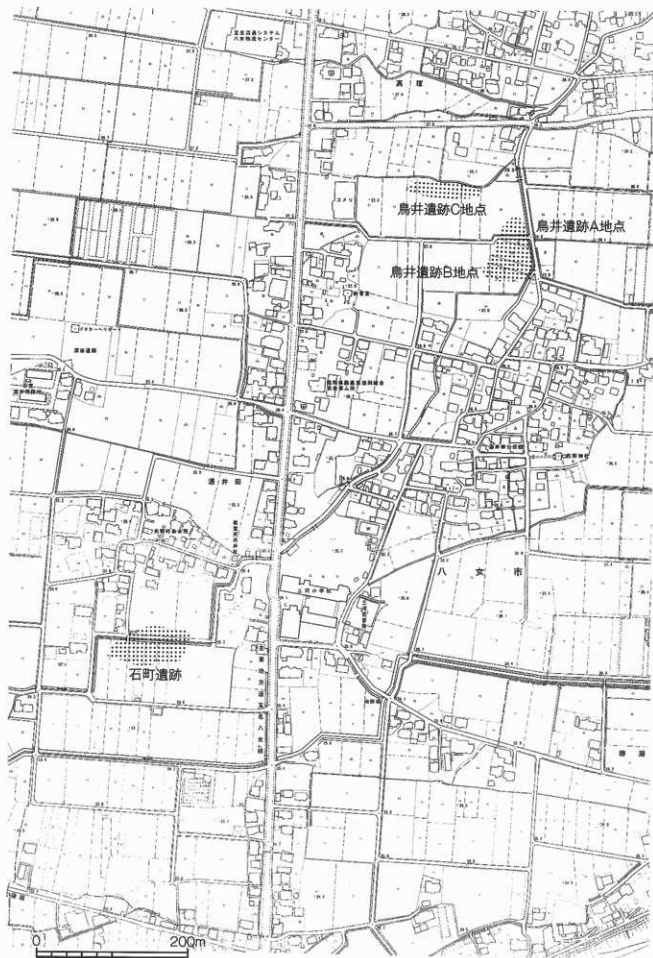
八女市教育委員会1992『八女市文化財調査報告書 第23集』

「角川日本地名大辞典」編纂委員会 竹内理三1988「角川日本地名大辞典40福岡県」



- | | | | | |
|-------------|-----------|-----------|-------------|---------------|
| 1. 石町遺跡 | 2. 烏井遺跡 | 5. 京田遺跡 | 6. 深田遺跡 | 7. 野田遺跡 |
| 3. 二反田遺跡 | 4. 宮ノ前遺跡 | 8. 宿町遺跡 | 9. 水洗遺跡 | 10. 三河小学校校庭遺跡 |
| 11. 国伏遺跡 | 12. アモメ遺跡 | 13. 松ノ本遺跡 | 14. 茶ノ木ノ本遺跡 | 15. 天上町遺跡 |
| 16. 揃町遺跡 | 17. 栲田遺跡 | 18. 打越遺跡 | 19. 新替遺跡 | 20. 大坪遺跡 |
| 21. 大坪・前田遺跡 | 22. 中里遺跡 | 23. 篠原遺跡 | 24. 北山今小路遺跡 | 25. 北山浄清田遺跡 |
| 26. 白木西原遺跡 | | | | |

第1図 石町遺跡・烏井遺跡と周辺の遺跡分布図 [1/25,000]



第2図 石町遺跡・鳥井遺跡位置図 [1/5,000]

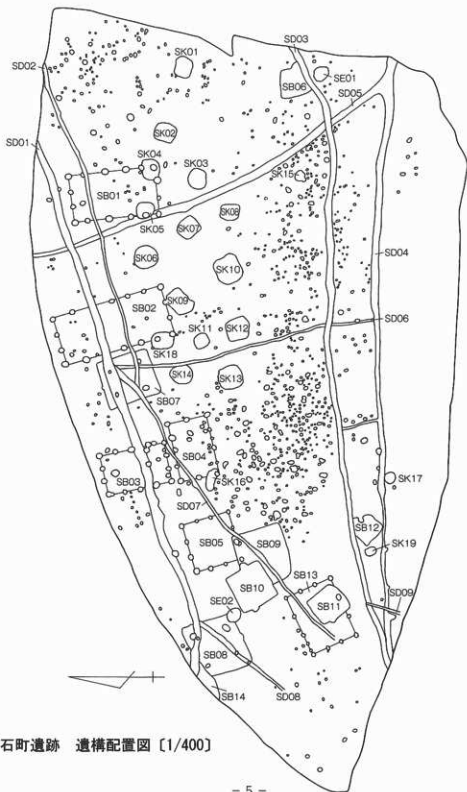
3 各遺跡の調査概要

(1) 石町遺跡

①発掘調査の概要

本遺跡は、八女市酒井田字石町に所在し、平成2年度実施された宮ノ前遺跡の東側に位置する。発掘調査は、平成3年6月から同9月までの期間実施された。

前述したように、本遺跡北側には奈良時代の高僧行基が開山したと伝えられる光明寺廃寺跡があり、現在でも「光明寺集会所」など地元に名称を残している。今回の調査では、関係する



第3図 石町遺跡 遺構配置図 [1/400]

遺跡が発見されるのではと期待された。

発掘調査の結果、奈良～平安時代を中心とする遺構が発見され、掘立柱建物6棟・竪穴住居8軒・土壇19基・井戸2基・溝9条が検出された。

②遺構と遺物

掘立柱建物（SB）

石町遺跡では、6棟の掘立柱建物が見つかり、内訳としては南北方向のもの4棟（SB01～SB03、SB05）、東西方向のもの2棟（SB04、SB11）が検出された。

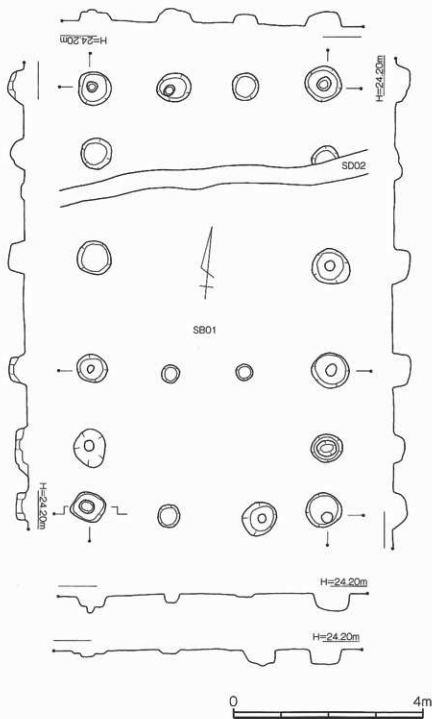
SB01（第4図、図版2）

調査区の北東で検出された。桁行5間（8.95m）、梁間3間（4.95m）の南北棟の建物である。

柱の掘方は隅丸方形で、残存する長辺は56cm～82cm、短辺は52cm～72cmで4カ所の柱痕跡が確認されている。柱の径は、20cm前後である。方位は、 $N-6^{\circ}-W$ である。

本遺構の北側は、S D02（東西方向）と重複しており、南側柱穴の一部は、SD05（南北方向）と重複しており、南側はSK04とSK05を切っている。

柱穴からの遺物は、出土していない。



第4図 石町遺跡 掘立柱建物（SB01）実測図 [1/80]

SB02 (第5図、図版2)

調査区の北東で検出された。SB01の西側に位置する。桁行6間(11.65cm)、梁間3間(5.10cm)の南北棟で、本遺跡の掘立柱建物の中で最大である。

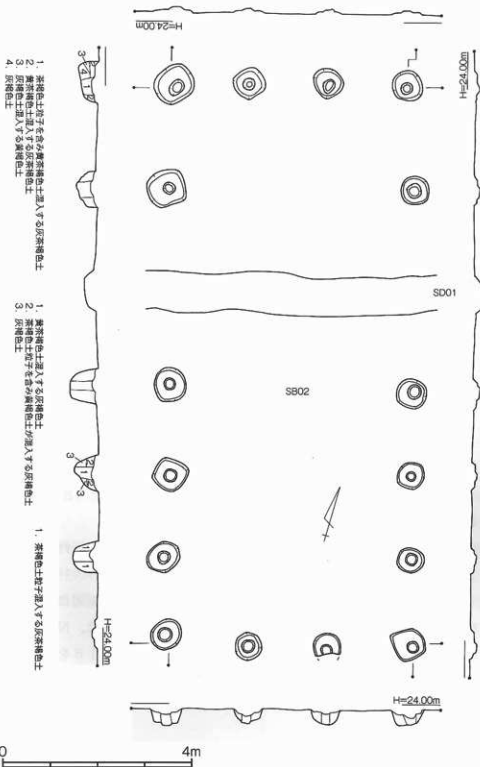
柱の掘方は、隅丸方形で、残存する長辺は53cm~85cm、短辺は51cm~74cmで9カ所の柱痕跡が確認されている。埋土は2層である。方位は、N-17°-Wである。

本遺構の中央部は、SD01(東西方向)及びSD02(東西方向)と重複しており、南西隅の柱穴は、S

K18を切っ

ている。

柱穴からの遺物は、出土していない。



第5図 石町遺跡 掘立柱建物 (SB02) 実測図 [1/80]

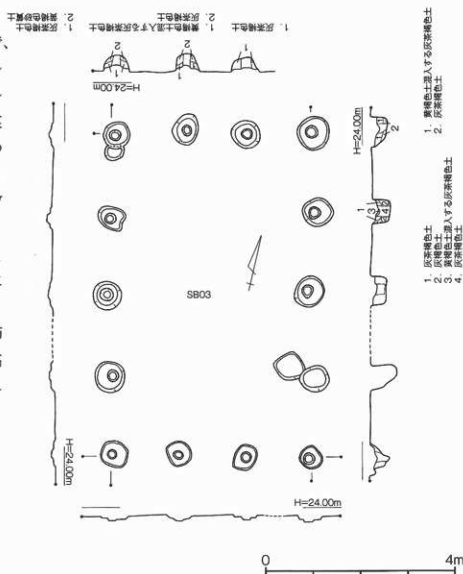
SB03 (第6図・39図、図版2・10)

調査区北側中央で検出され、SB02の西側に位置する。桁行4間(6.75m)、梁間3間(4.20m)の南北棟である。

柱の掘方は隅丸方形で、残存する長辺は48cm～70cm、短辺は47cm～66cmで、7カ所の柱痕跡を確認しており、柱の径は20cm前後である。方位は、 $N-12^{\circ}-W$ である。

本遺構の中央部分は、SD01(東西方向)に切られる。

遺物は、柱穴から土師器の甕(39図1)と高坏(39図2)が出土している。



第6図 石町遺跡 掘立柱建物(SB03)実測図 [1/80]

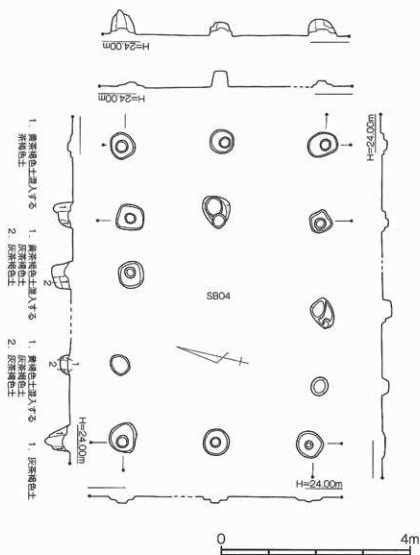
SB04 (第7図・39図、図版3・10)

調査区の北側中央で検出され、SB03の南側に位置する。桁行3間(4.60m)、梁間2間(3.90～4.20m)の東西棟である。

柱の掘方は隅丸方形で、残存する長辺は39cm～67cm、短辺は39cm～55cmで、7カ所の柱痕跡を確認している。柱の径は20cm前後である。方位は、 $N-79^{\circ}-E$ である。

本遺跡北側をSD07(東西方向)に切れ、西側のSK16を切る。

遺物は、弥生式土器の壺(39図3)が1点出土しているが、おそらく流れ込みと思われる。



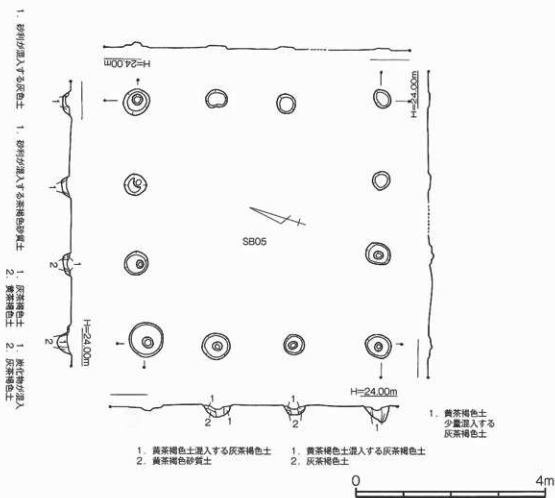
第7図 石町遺跡 掘立柱建物（SB04）実測図〔1/80〕

SB05（第8図・39図、図版3・10）

調査区西側で検出され、SB04の西側に位置する。桁行、梁間ともに3間（5.10cm）の方形である。

柱の掘方は隅丸方形で、残存する長辺は38cm～56cm、短辺は35cm～70cmで、7カ所の柱痕跡を確認している。柱の径は20cm前後である。方位は、N-17°-Wである。

遺物は、土師器の甕（39図4）が1点出土している。



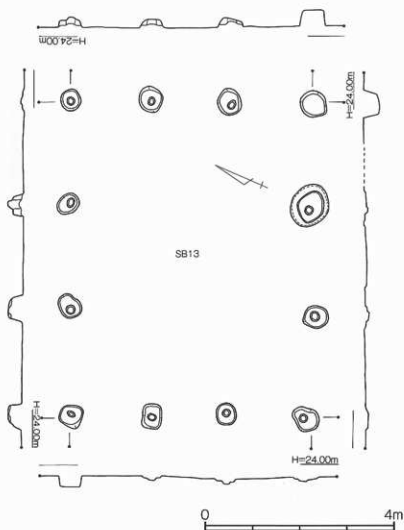
第8図 石町遺跡 掘立柱建物（SB05）実測図 [1/80]

SB13（第9図、図版3）

調査区の西側で検出され、SB05の南西側に位置する。桁行3間（6.60m）、梁間3間（5.10m）の東西棟である。

柱の掘方は、隅丸方形で、残存する長辺は43cm～69cm、短辺は40cm～57cmで、4カ所の柱痕跡を確認している。柱の径は20cm前後である。方位は、N-65°-Eである。

遺物は、弥生式土器の甕が出土しているが、おそらく流れ込みと思われる。



第9図 石町遺跡 掘立柱建物（SB13）実測図〔1/80〕

竪穴住居（SB）

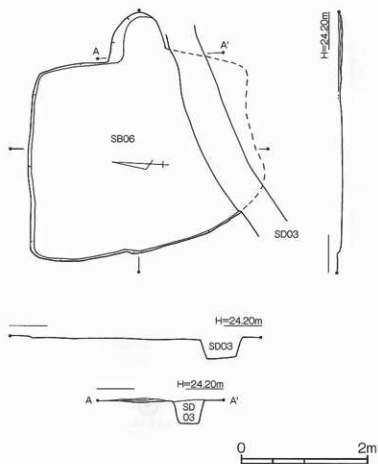
石町遺跡では、8軒の竪穴住居が見つっており、形状としては方形のものと長方形のものと、長方形の住居は若干小型のものも確認されている。また、殆どの住居にカマドが付設されていた。

SB06（第9図、図版4）

調査区の東側で検出された。規模は東西3.20m、南北は確認できる長さで3.75mの長方形プランである。面積は12㎡。壁高は、5cmと残りが悪い。長辺やや北よりの場所に東側に突出したカマドを付設する。柱穴は見つかっていない。方位は、N-88°-Eである。

本遺構は、南側をSD03（東西方向）とSE01に切られている。

遺物は出土していない。



第10図 石町遺跡 竪穴住居 (SB06) 実測図 [1/60]

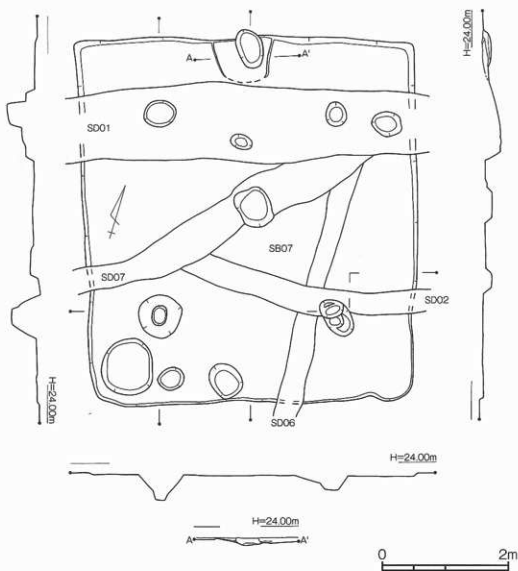
SB07 (第11図、図版4)

調査区の北側中央で検出され、SB02の西側に位置する。規模は東西5.20m、南北5.80mのやや縦長の方形プランである。壁高は、0.8cmで、面積は、30.16㎡である。

北側の中央部にカマドを付設しており、カマドは突出してはいない。柱穴は4本確認されており、掘方の径は33cm～68cmである。柱間は、南北が約4.2m、東西が約3.7mである。方位は、N-17°-Eである。

本遺構は、SD01、SD02、SD06、SD07に切られており、本遺跡の竪穴住居としては時期が古いと思われる。

遺物は、出土していない。



第11図 石町遺跡 竪穴住居 (SB07) 実測図 [1/60]

SB08 (第12図・39図、図版4・10)

調査区の西側で検出された。規模は東西5.80m、南北5.20mのやや縦長の方形プランで、SB07と同形である。壁高は0.8cmで、面積は、30.16㎡である。

北側の中央部にカマドを付設しており、カマドは突出してはいない。柱穴は4本確認されており、柱間は南北が約4.3m、東西が約4mでSB07とほぼ同じである。方位は、N-20°-Wである。

本遺構は、西側の一部をSB14に、北側をSD01に、南側をSD08とSE02に切られている。

遺物は、土師器の坏(39図5)が出土している。

SB09 (第13図・39図、図版5・6・10)

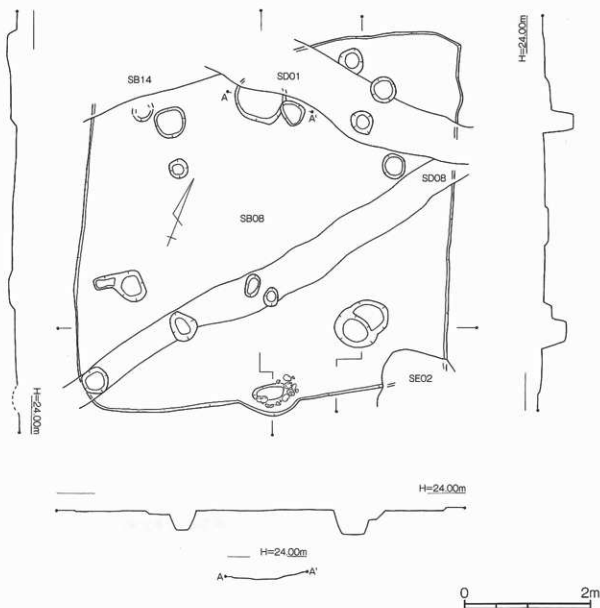
調査区の西側で検出された。規模は東西6.10m、南北5.55mの縦長の方形プランであ

る。壁高は0.8cmで、面積は33.855㎡である。

北側中央部にカマドを付設している。切り合い等により、柱穴は確認できていない。方位は、 $N-20^{\circ}-W$ である。

本遺構は、西側をSB10に、北東から南西方向にはSD07から切られている。

遺物は、須恵器の完形の壺（39図6）が出土している。

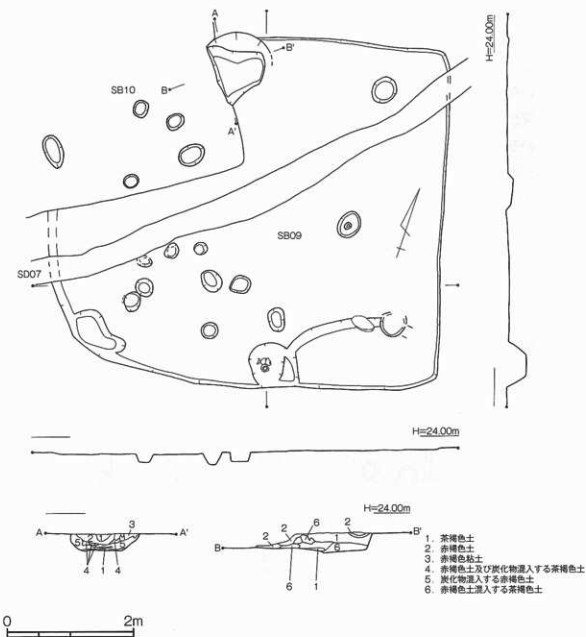


第12図 石町遺跡 竪穴住居（SB08）実測図 [1/60]

SB10（第14図・39図・46図、図版5・10・12）

調査区西側にあり、SB05の西隣に位置する。規模は、東西4.60m、南北4.20mのやや横長の方形プランである。壁高は17cmで、面積は19.32㎡である。柱穴は4本確認されている。

西側北寄りの部分に突出したカマドを付設している。方位は、 $N-30^{\circ}-W$ である。本遺構は、SB09を切っている。



第13図 石町遺跡 竪穴住居 (SB09) 実測図 [1/60]

遺物は、須恵器の高台付碗 (39図8)・甕 (39図9・10)、土師器の坏蓋 (39図11)・甕 (39図12)・甌の把手 (39図13・14)、その他移動式カマド (39図15) が出土している。また、カマド内からは土錘 (第46図1) が出土している。

SB11 (第15図、図版5)

調査区西側にあり、SD07の南側に位置する。規模は、東西3.70mで、南北4.0mの長方形プランで、SB10よりやや小型である。壁高は5cmで、面積は14.8㎡である。柱穴は確認できていない。

西側北寄りの部分に突出したカマドを付設している。方位は、N-52°-Eである。

本遺構は、SB13に切られる。

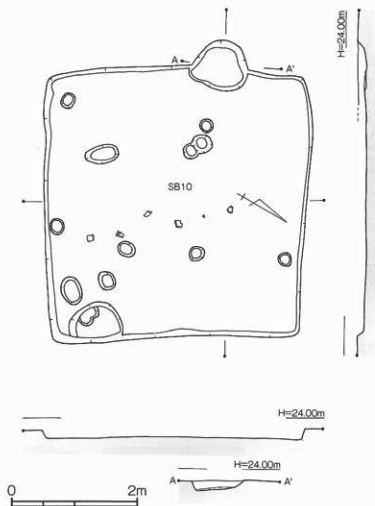
遺物は、出土していない。

SB12 (第16図)

調査区南側にあり、SK19の東側に位置する。規模は、東西2.80m、南北3.0mの長方形プランである。壁高は5cmで、面積は約8.4㎡と竪穴住居の中で最小である。柱穴は確認できていない。

東側に突出するカマドを付設する。方位は、N-45°-Eである。北側は、SD03に切られている。

遺物は、出土していない。



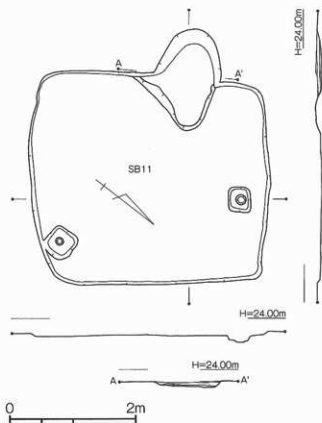
第14図 石町遺跡 竪穴住居 (SB10) 実測図 [1/60]

SB14 (第17図・39図、図版10)

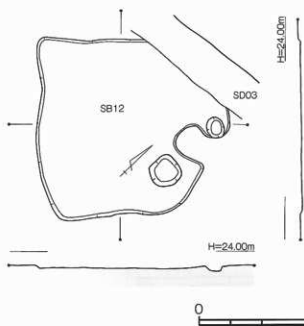
調査区西側に位置するが、北側が調査区外であるため、規模については不明である。壁高は13cmである。方位は、N-50°-Eである。

本遺構は、SB08を切っており、SD01に切られている。

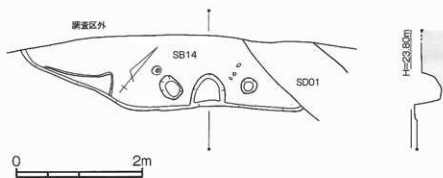
遺物は、土師器の高坏 (39図16) が出土している。



第15図 石町遺跡 竪穴住居 (SB11) 実測図 [1/60]



第16図 石町遺跡 竪穴住居 (SB12) 実測図 [1/60]



第17図 石町遺跡 竪穴住居 (SB14) 実測図 [1/60]

土壌 (SK)

石町遺跡からは、19基見ついている。中でも貯蔵穴と思われるものが調査区中程から東側にかけて15基集中して見つかり、貯蔵穴群と考えられる。ただ、方向や配列については一致していない。それ以外の土壌は竪穴住居と同じ時期のものが4基確認されている。

SK01 (第18図、図版6)

調査区の東側で見つかり、貯蔵穴と思われる。貯蔵穴中最も東側に位置する。長軸を東西方向に取る。規模は、長軸2.12m、短軸1.80mの隅丸方形である。深さは、55cmで、床面に長さ1mほどの短軸に対して溝状のピットが2個検出された。埋土は3層確認されており、1層目は灰茶褐色土、2層目は茶褐色土、3層目は黄褐色土である。

遺物は出土していない。

SK02 (第19図、図版6)

調査区東側にあり、SK01の西北5mに位置する。貯蔵穴と思われる。平面形は隅丸方形で、長軸を東西方向に取る。規模は、長軸2.30m、短軸1.95mである。深さは65cmで、床面は平坦である。埋土は5層確認されており、1層目が川原石が混入する灰褐色土、2層目が灰褐色土混入する褐色土、3層目が茶褐色土、4層目が黄褐色土、5層目が褐色土である。

遺物は出土していない。

SK03 (第20図、図版6)

調査区の東側にあり、SK02の南西4mに位置する。貯蔵穴と思われる。平面形は円形に近い方形で、長軸を東西方向に取る。規模は、長軸2.20m、短軸1.92mで、深さは68cmで、床面は中央に緩やかに傾斜している。埋土は6層確認され、1層目が灰褐色土、2層目が褐色土、3層目が黄褐色土、4層目が茶褐色土、5層目が灰褐色土、6層目が茶褐色土である。

遺物は出土していない。

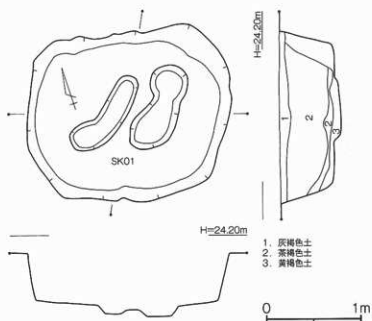
SK04 (第21図、図版6)

調査区の東側にあり、SK02の北西2.5mに位置する。貯蔵穴と思われる。平面形は隅丸方形で、長軸を東西方向に取る。規模は、長軸2.20m、短軸1.70mで深さは、60cmで、床面は平坦である。

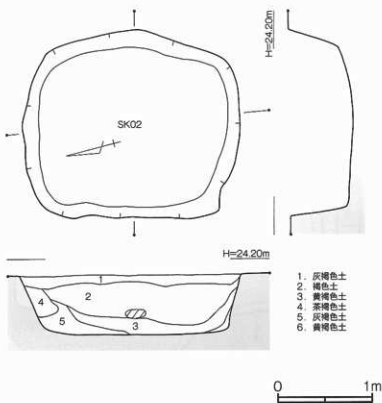
埋土は9層確認されており、1層目は炭化米含み黄褐色土混入する灰茶褐色土、2層目は茶褐色土、3層目は炭化米が多く混入する茶褐色土、4層目は黄灰褐色土、5層目は黄茶褐色土混入する茶褐色土、6層目は焼土混入する茶褐色土、7層目は暗茶褐色土、8層目は炭化米層、9層目は灰色粘土であった。

本遺跡は、SB01に切られている。

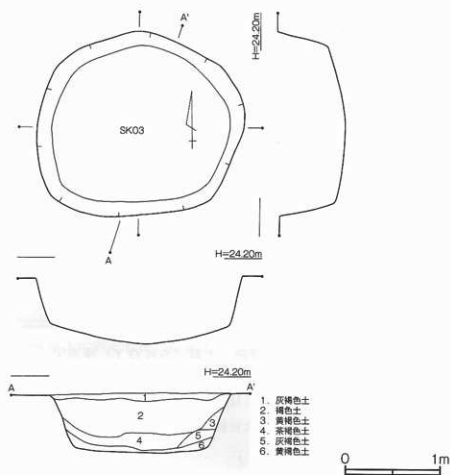
遺物は、炭化米が出土している。



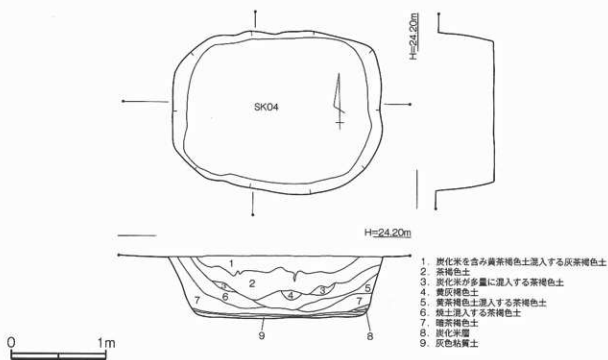
第18図 石町遺跡 土坑（SK01）実測図 [1/40]



第19図 石町遺跡 土坑（SK02）実測図 [1/40]



第20図 石町遺跡 土壌 (SK03) 実測図 [1/40]



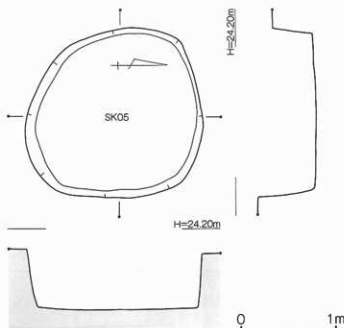
第21図 石町遺跡 土壌 (SK04) 実測図 [1/40]

SK05 (第22図、図版6)

調査区北側にあり、SK04の西側2 mに位置する。貯蔵穴と思われる。平面形は、円形に近い隅丸方形で、長軸を南北方向に取る。規模は、長軸1.90 m、短軸1.78 mで深さは63 cmで、床面は、平坦である。

本遺構は、SD05を切り、SB01に切られている。

遺物は、炭化米が出土している。

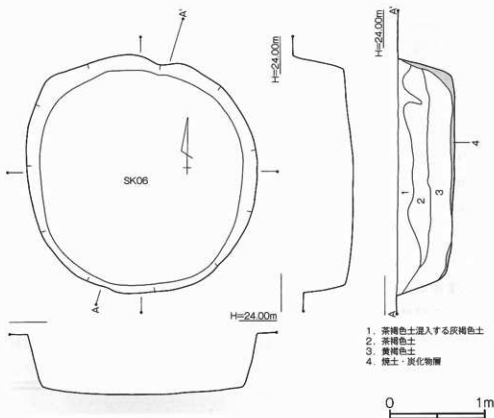


SK06 (第23図)

調査区北側にあり、SK05の西側2.5 mに位置する。貯蔵穴と思われる。平面形はほぼ円形に近い隅丸方形で、長軸を南北方向に取る。規模は、長軸2.50 m、短軸2.43 mで深さは64 cmで、床面は平坦である。

埋土は4層あり、1層目は茶褐色土混入する灰褐色土、2層目は茶褐色土、3層目は黄褐色土、4層目は焼土と炭化物層である。

遺物は出土していない。



第23図 石町遺跡 土坑 (SK06) 実測図 [1/40]

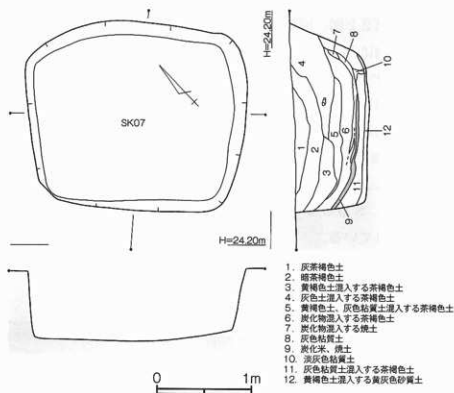
SK07 (第24図)

調査区東側にあり、SK03の北西3mに位置する。貯蔵穴と思われる。平面形は隅丸方形で、長軸を東西方向に取る。規模は、長軸2.30m、短軸2.00mで深さは75cmで、床面は平坦である。

埋土は12層確認され、1層目は灰茶褐色土、2層目は暗茶褐色土、3層目は黄茶褐色土混入する茶褐色土、4層目は灰色土混入する

茶褐色土、5層目は黄褐色土及び灰色粘質土混入する茶褐色土、6層目は炭化物混入する茶褐色土、7層目は炭化物混入する焼土、8層目は灰色粘質土、9層目は炭化米及び焼土、10層目は淡灰色粘質土、11層目は灰色粘質土混入する茶褐色土、12層目は黄褐色土混入する黄灰色砂質土である。

遺物は、炭化米が出土している。

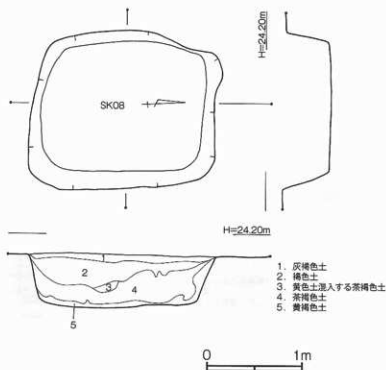


第24図 石町遺跡 土坑(SK07) 実測図 [1/40]

SK08 (第25図、図版6)

調査区東側にあり、SK07の南東2mに位置する。貯蔵穴と思われる。平面形は隅丸長方形で、長軸を南北方向に取る。規模は、長軸1.92m、短軸1.65mで、深さは55cmで床面は平坦である。埋土は5層確認され、1層目は灰褐色土、2層目は褐色土、3層目は黄色土混入する茶褐色土、4層目は茶褐色土、5層目は黄褐色土である。

遺物は出土していない。

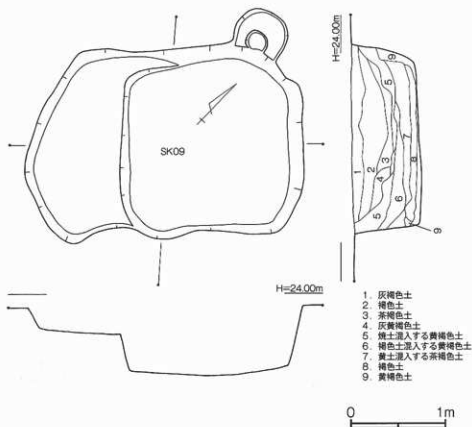


第25図 石町遺跡 土坑(SK08) 実測図 [1/40]

SK09 (第26図・40図、図版6・11)

調査区の中央にあり、SK06の南西に位置する。貯蔵穴と思われる。平面形は、隅丸長方形で、西側が浅い2段掘りとなっている。長軸を北東から南西方向に取る。規模は、長軸2.93m、短軸1.95mである。深さは浅い所で30cm、深い所で75cmである。埋土は9層確認されており、1層目は灰褐色土、2層目は褐色土、3層目は茶褐色土、4層目は灰黄褐色土、5層目は焼土混入する黄褐色土、6層目は褐色土混入する黄褐色土、7層目は黄土混入する茶褐色土、8層目は褐色土、9層目は黄褐色土である。

遺物は、弥生式土器の甕(40図1)が出土している。

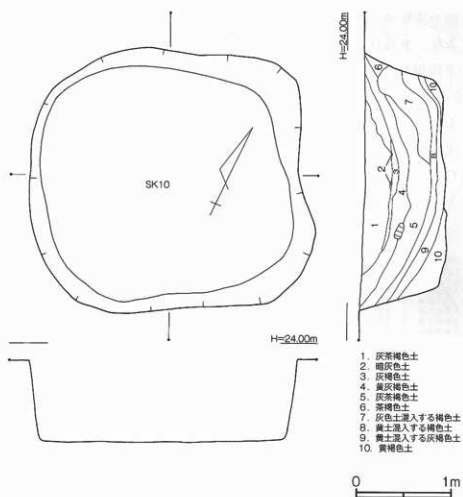


第26図 石町遺跡 土坑(SK09)実測図[1/40]

SK10 (第27図、図版7)

調査区中央にあり、SK08の3.5m西側に位置する。貯蔵穴と思われる。平面形は、隅丸方形である。長軸を東西方向に取る。規模は、長軸2.85m、短軸2.70mで、貯蔵穴の中では最大である。深さは87cmで床面は平坦である。埋土は10層確認されおり、1層目は灰茶褐色土、2層目は暗灰色土、3層目は灰褐色土、4層目は川原石混入する黄灰褐色土、5層目は灰茶褐色土、6層目は茶褐色土、7層目は灰色混入する褐色土、8層目は黄土混入する褐色土、9層目は黄土混入する灰褐色土、10層目は黄褐色土である。

遺物は出土していない。

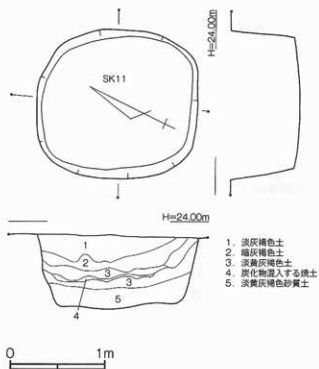


第27図 石町遺跡 土坑(SK10)実測図[1/40]

SK11 (第28図、図版7)

調査区の中央にあり、SK09の南西2.5mに位置する。貯蔵穴と思われる。平面形は隅丸方形である。長軸を東西方向に取る。規模は、長軸1.70m、短軸1.55mで深さは75cmで床面は平坦である。埋土は5層確認されており、1層目は淡灰褐色土、2層目は暗茶褐色土、3層目は淡黄灰褐色土、4層目は炭化物が混入する焼土層、5層目は淡黄灰褐色砂質土である。

遺物は出土していない。

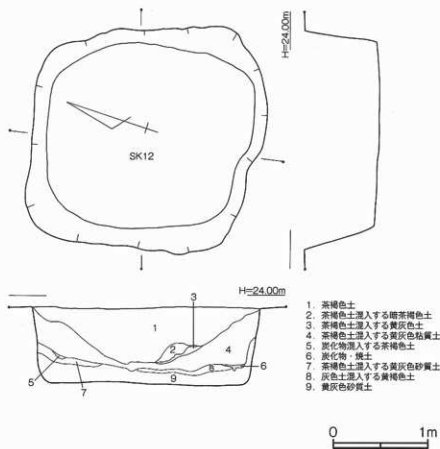


第28図 石町遺跡 土坑(SK11)実測図[1/40]

SK12 (第29図、図版7)

調査区中央にあり、SK10の西側3.5mに位置する。貯蔵穴と思われる。平面形は隅丸方形である。長軸を南北方向に取る。規模は、長軸2.45m、短軸2.30mで深さは80cmで床面は平坦である。埋土は9層確認され、1層目が茶褐色土、2層目が茶褐色土混入する暗茶褐色土、3層目が茶褐色土混入する黄灰色土、4層目が黄灰色粘質土が混入する茶褐色土、5層目は炭化物混入する茶褐色土、6層目は炭化物と焼土層、7層目は茶褐色土混入する黄灰色砂質土、8層目は灰色土混入する黄褐色土、9層目は黄灰色砂質土である。

遺物は出土していない。

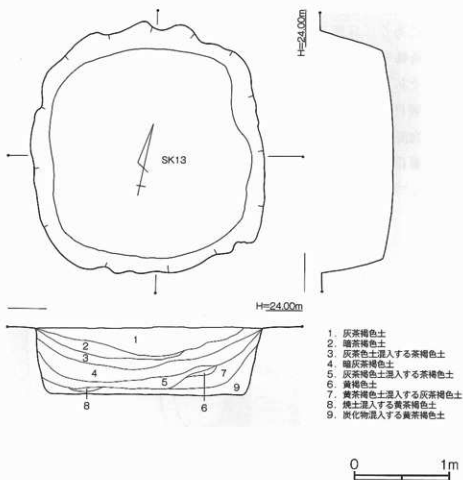


第29図 石町遺跡 土壌 (SK12) 実測図 [1/40]

SK13 (第30図、図版7)

調査区中央にありSK12の2.5m西側に位置する。貯蔵穴と思われる。平面形は隅丸方形である。長軸を南北方向に取る。長軸2.60m、短軸2.45mで、深さは75cmで、床面は平坦である。埋土は9層確認されており、1層目が灰茶褐色土、2層目は暗茶褐色土、3層目は灰茶褐色土混入する茶褐色土、4層目は暗灰茶褐色土、5層目は灰茶褐色土混入する茶褐色土、6層目は黄褐色土、7層目は黄茶褐色土混入する灰茶褐色土、8層目は焼土混入する黄茶褐色土、9層目は炭化物混入する黄茶褐色土である。

遺物は出土していない。



第30図 石町遺跡 土坑（SK13）実測図 [1/40]

SK14（第31図、図版7）

調査区中央にあり、SK13の北側に位置する。貯蔵穴と思われる。長軸を南北に取る。規模については、遺構の東側をSD06に切られているため、東西方向が不明であるが平面形は隅丸方形と思われる。長軸2.40m、短軸は残存するところで1.70mである。深さは70cmで床面は平坦である。

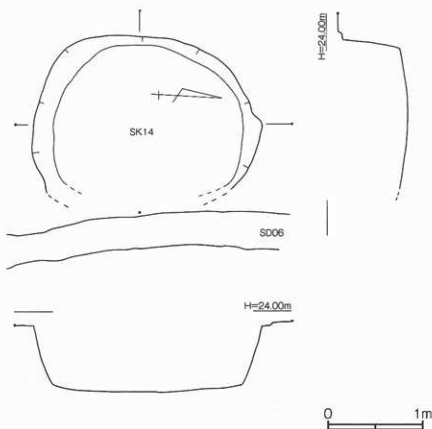
遺物は出土していない。

SK15（第32図）

調査区南東にあり、SB06の西側7.5mに位置する。平面形は円形で、長軸を東西方向に取る。長軸1.12m、短軸1mで、深さは44cmと深く床面は平坦である。

規模も小さく、貯蔵穴群から離れているため貯蔵穴ではないと思われる。

遺物は出土していない。



第31図 石町遺跡 土坑（SK14）実測図 [1/40]

SK16（第33図）

調査区北側に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸を東西方向に取る。長軸2.40m、短軸1.00mで、長軸の両側が段になっている。深さは浅い所で10cm、深い所で44cmである。

本遺構の南側はSB04に切られる。

遺物は出土していない。

SK17（第34・40図、図版11）

調査区南側に位置する。平面形は円形である。径は1.20mで、深さは20cmである。床面北側に長さ40cm、幅30cm、深さ10cmのピットを有する。壁はやや斜めに立ち上がる。

遺物は、土師器の坏（40図3）が出土している。

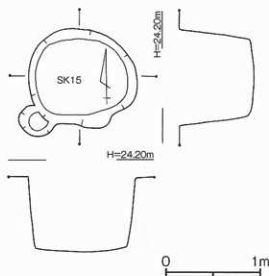
SK18

調査区北側にあり、SK14の東側2mに位置する。規模については、掘り下げを行っていないため不明である。遺構の北側と南側をSB02の柱穴に切られる。

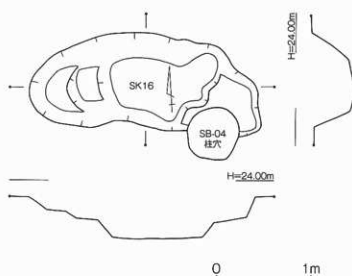
SK19 (第35・40図、図版11)

調査区西側にあり、SB12の西隣に位置する。平面形は隅丸長方形である。長軸を南北方向に取る。長軸1.17m、短軸0.87mで、深さは5cmで床面に長さ10cm、幅20cm、深さ7cmの溝状の窪みが見られる。

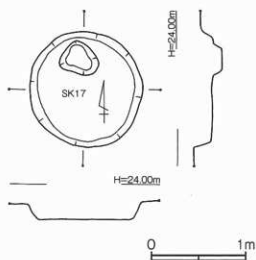
遺物は、須恵器の杯蓋(40図4)が出土している。



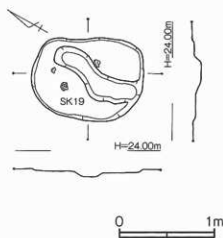
第32図 石町遺跡 土坑(SK15)実測図 [1/40]



第33図 石町遺跡 土坑(SK16)実測図 [1/40]



第34図 石町遺跡 土坑(SK17)実測図 [1/40]



第35図 石町遺跡 土坑(SK19)実測図 [1/40]

井戸(SE)

石町遺跡では、調査区の東側と西側で2基の井戸を検出した。いずれも素掘りのもので遺物が出土していないため時期については不明である。

SE01 (第36図)

調査区東側で検出された。平面プランは、隅丸方形で、規模は長軸1.68m、短軸1.50mである。深さは8.6mを測る。内部に痕跡等も見られず素掘りと思われる。

埋土は6層に分かれており、1層目は灰茶褐色土、2層目は灰茶褐色土混入する茶褐色土、3層目は暗灰茶褐色土、4層目は川原石と灰茶褐色土が混入する茶褐色土、5層目は炭化物と黄茶褐色土が混入する灰色砂質土、6層目は黄茶褐色土混入する灰色砂質土である。

本遺構は、SB06を切っている。

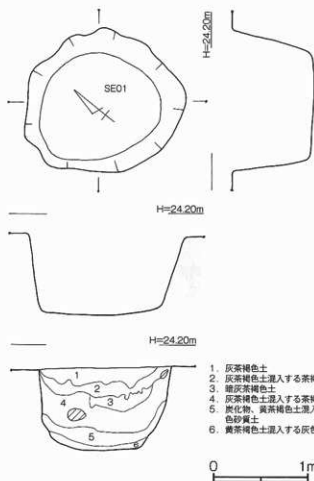
遺物は、出土していない。

SE02 (第37図、図版7)

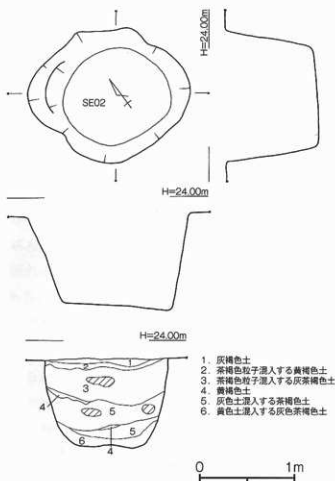
調査区北側で検出され、SB10の北側に隣接する。平面プランは、不整形円形である。規模は、長軸1.70m、短軸1.40mで、残存高は1mを測る。内部に痕跡等も見られず素掘りと思われる。埋土は6層確認された。1層目は灰褐色土、2層目は茶褐色粒子混入する黄褐色土、4層目は黄褐色土、5層目灰色土混入する茶褐色土、6層目は黄色土混入する灰色茶褐色土である。3層目と5層目には川原石が混入していた。

本遺構は、SB08を切っている。

遺物は、出土していない。



第36図 石町遺跡 井戸 (SE01) 実測図 [1/40]



第37図 石町遺跡 井戸 (SE02) 実測図 [1/40]

溝 (SD)

石町遺跡では、溝は9条見つかっている。内訳としては、東西方向のもの4条、南北方向のもの2条、北東から南西方向のもの3条である。南北方向のものが比較的に少ない。

SD01 (第41図～44図・図版7・10・11・12)

調査区北側で検出された。北東から西側に走る溝で、西側はゆるやかに北側へカーブしている。検出長は約58.80mで、幅0.60m～1.10m、深さは0.14m～0.35mで本遺跡の溝の中では、最大規模である。

SB02・03の掘立柱建物と重複し、SB07・08・14の竪穴住居や南北方向の溝SD05を切っている。

本遺跡の遺構の中で遺物が最も多く出土しており、須恵器の坏蓋(41図1～5)や坏身(41図6～8)・埴(41図9)・壺(41図10)・甕(41図12～15)・高杯(41図11)、土師器の坏身(42図16～21)・埴(42図22)・壺(42図23)・甕(42図24～30)・高杯(43図31～34)・甕(43図35～39)等その他移動式カマド(44図40～43)が出土している。土師器の高杯に赤色顔料が塗布されたものも出土している。その他、鉄製品(第462)が出土している。

SD02 (第45図・46図、図版12)

調査区北側で検出された。北東から南西に走る溝で、SD01の南側2mに位置し、平行に流れている。検出長約35.60mで、幅0.25m～0.50m、深さ0.05m～0.21mで、調査区中程でSD07と合流している。

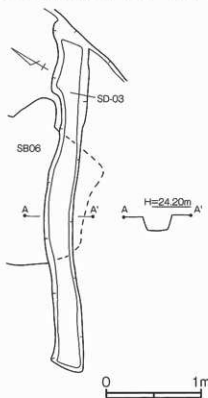
SB01・02の掘立柱建物と重複し、SB07の竪穴住居と南北方向の溝SD05・06を切っている。

遺物は、弥生式土器の甕(45図51)が出土しており、石器では、サヌカイト製の石鏃(46図3)が出土しているが、流れ込みと思われる。

SD03 (第38図・45図、図版12)

調査区南側で検出された。北東から南西に流れる。検出長約66.80m、幅0.55～0.85mで深さは0.33～0.59mである。

断面は、逆台形で床面は平坦である。SB12竪穴住居と南北方向の溝SD05・06を切っている。



第38図 石町遺跡 溝(SD03)実測図
[1/40]

遺物は、須恵器の坏蓋（４５図５２）と坏身（４５図５３）が出土している。

SD04（第４５図、図版１２）

調査区の最も南側で検出された。北東から南西に走る溝で、SD03の南側４．５ｍに位置し、平行に流れている。検出長約６２ｍで、幅０．２０～０．８０ｍで深さは０．０２～０．１５ｍである。東側はSD05と合流し、SD06を切っている。

遺物は、須恵器の坏身（４５図５４）と土師器の埴（４５図５５）が出土している。

SD05

調査区東側で検出された。南北方向に流れる。検出長約４４ｍで、幅０．４５～１．０５ｍ、残存高は０．０５から０．１５ｍである。東西方向のSD01・02・03に切られ、SD05とは南側の端で合流している。また、SK05からも切られている。

遺物は、出土していない。

SD06

調査区のほぼ中央部で検出された。南北に走る溝で、SD05の西側１７ｍに位置し、平行に流れている。検出長約２７ｍで、幅０．２２～０．３５ｍ、深さ０．０４～０．１６ｍである。SD01・02・03・04に切られ、堅穴住居SB07、SK14を切っている。

遺物は出土していない。

SD07

調査区西側で検出された。北東から南西方向に流れ、東側はSD01と合流している。検出長約３６．６０ｍ、幅０．５５～０．８５ｍ、深さ０．０３～０．１４ｍである。SB03・04・05・13の掘立柱建物と重複しており、SB07・09の堅穴住居を切っている。

遺物は出土していない。

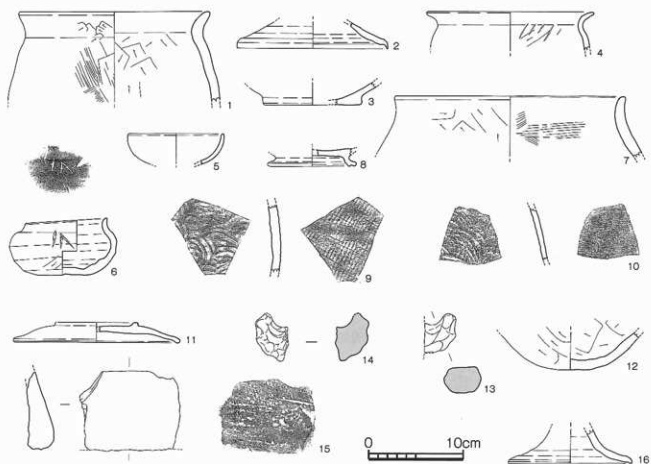
SD08

調査区西側で検出された。北東から南西方向へ流れる。検出長は、約１０．９０ｍで、幅０．２０～０．６０ｍ、残存高０．０３～０．１０ｍである。東側はSD01と合流しており西側は切れている。また、SB08の堅穴住居を切っている。

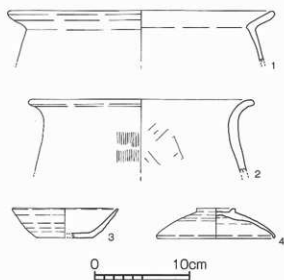
遺物は出土していない。

SD09

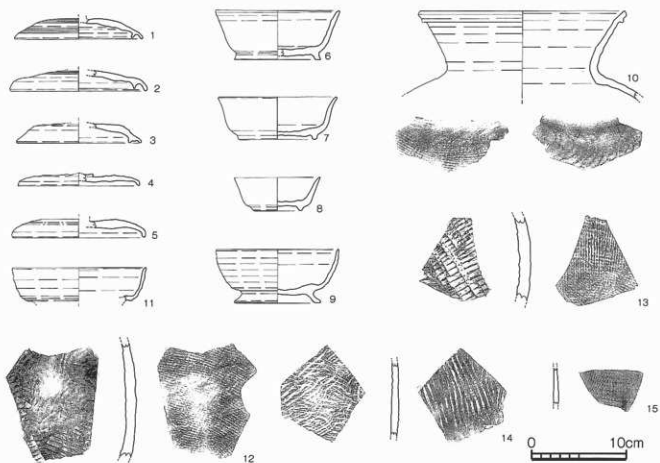
調査区西側で検出された。北東から南西に流れる。検出長約４ｍ、幅０．１５～０．３０ｍである。SD03から分岐しているが西側は切れている。遺構の掘下げを行っていないため、深さについては不明である。



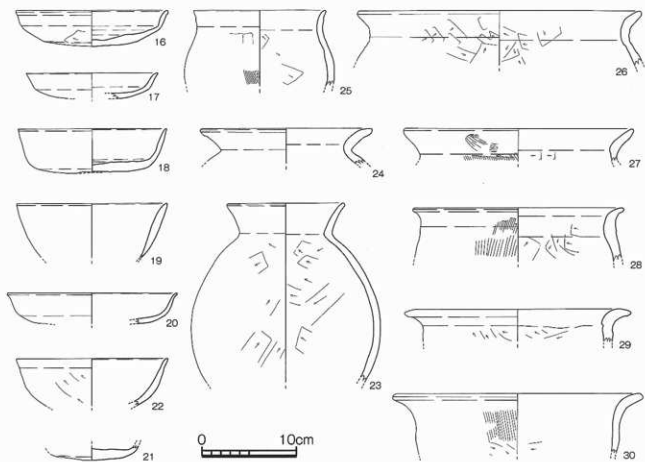
第39図 石町遺跡 掘立柱建物（SB03・04・05）、竪穴住居（SB08・09・10・14）出土土器実測図〔1/4〕



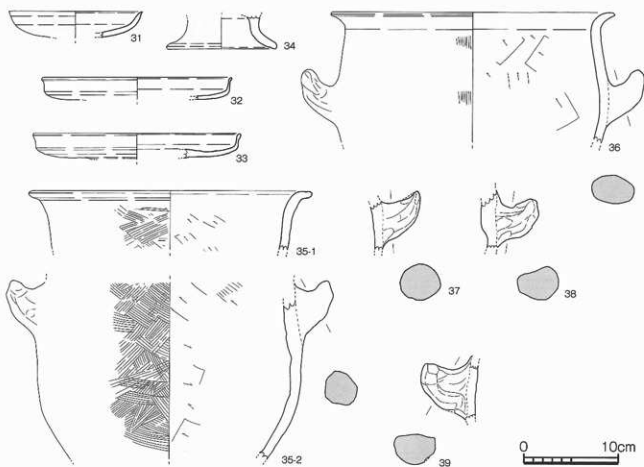
第40図 石町遺跡 土壇（SK09・17・19）出土土器実測図〔1/4〕



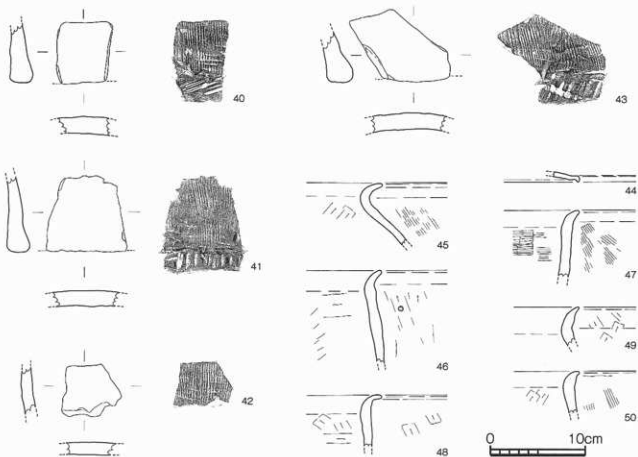
第41図 石町遺跡 溝(SD01)①出土土器実測図 [1/4]



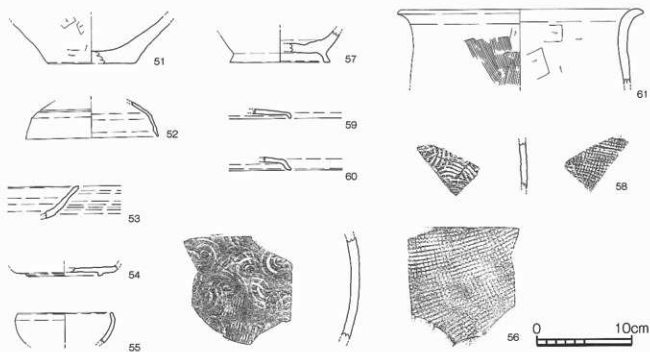
第42図 石町遺跡 溝(SD01)②出土土器実測図 [1/4]



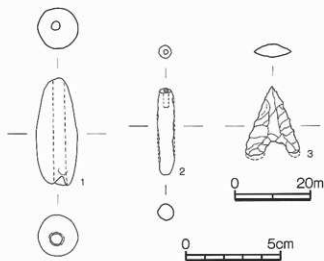
第43図 石町遺跡 溝(SD01)③出土土器実測図 [1/4]



第44図 石町遺跡 溝(SD01)④出土土器実測図 [1/4]



第45図 石町遺跡 溝 (SD02・03・04)、ピット (P05・10・19・99・117・120) 出土土器実測図 [1/4]



第46図 石町遺跡 土製品 (SB10)、鉄器 (SD01)、石器 (SD02) 実測図 [1/2、1/1]

③まとめ

今回の発掘調査の結果、石町遺跡では、弥生時代のものと思われる貯蔵穴群と、奈良時代を中心とした掘立柱建物や竪穴住居、井戸や溝等が見つかった。以下、各遺構について説明する。

貯蔵穴と思われる土壇は、一辺2m前後の方形のものが多く検出され、径が1m前後の小型で円形の遺構も検出された。また、1基だけであるが2段になっている土壇 (SK09) も見ついている。出土遺物は少なく、壺などの細片のみが出土した。また、数基を除いてほとん

どの土壌から炭化物が確認されており、遺構の中層に炭化米が詰まった状態で検出されたものも確認された。

貯蔵穴群は、切り合いから、掘立柱建物や溝等に先行する時期のものと思われ、出土遺物から、弥生時代のものと思われる。また、その他の土壌については出土した土器等から堅穴住居等に伴うものと思われる。

石町遺跡周辺は、これまで水洗遺跡・二反田遺跡・宮ノ前遺跡と言った弥生時代から古墳時代までの集落が見つかっている。今回見つかった貯蔵穴群は、それらの遺跡との関連性が考えられる。

また、貯蔵穴内から検出された炭化米や焼土は、火災によるものなのかは分かっていないが、各遺構の土層観察によれば同時期に埋まったものと思われる。

堅穴住居は8件検出されており、規模が不明のSB14を除いてすべての住居にカマドが付設されていた。住居の時期については、規模や形状から3時期が考えられた。

まず、一辺が6m前後の方形の住居は、調査区の中程から西側北寄りの区域から3軒(SB07・08・09)が検出された。内部施設として、北側中央部分にカマドを付設しており柱穴は4本確認されている。

次に短軸が3.5m～4m、長軸が4m前後の住居は調査区西側で2軒(SB10・11)見つかっており、長軸の西側北寄りの部分に突出するカマドを付設している。柱穴は確認されているものとそうでないものがあった。

最後に、短軸3m、長軸3.5～4mの住居は、調査区南側で2軒検出されており、内部施設として東側の中央部分に突出するカマドを付設している。柱穴はいずれも確認されていない。時期については、方形の規模が大きいものが最も古く、長方形のものは小型化して行く。

堅穴住居の時期については、出土遺物から奈良時代のものと思われる。

掘立柱建物は、調査区北側に集中しており、南北棟建物4棟(SB01・02・03・05)、東西棟建物2棟(SB04・13)が見つかった。ほぼ真北を主軸としている。

まず、南北棟は桁行6間、梁間3間のもの、桁行5間、梁間3間のもの、桁行4間、梁間3間のもの、桁行3間、梁間3間のものが検出された。また、東西棟は、桁行3間、梁間2間のもの、桁行3間、梁間3間のものが検出された。

掘立柱建物については、互いに切り合いもなく、方角も同じことから、ほぼ同時期のものと思われる。細かい時期については、遺物が少ないため確定できないが、奈良時代の堅穴住居(SB11)を切っており、また、東西方向の溝(SD01・02・07)を切っていることから、本遺跡の中では最も新しいと考えられる。

溝については、東西方向のものが4条(SD01・02・03・04)、南北方向のものが2条(SD05・06)、その他が3条(SD07・08・09)見つかった。東西方向のものは古手の堅穴住居(SB07・08)を切っており、時期的には、南北方向のものが東西方向のものより古いと思われる。本遺跡中もっとも遺物が多く出土したSD01は8世紀代と思われる。

棟号	番号	実測 番号	出土 遺構	器種	種別	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調 整	色調・胎土	備 考
第39回	1	R57	S B03	甕	土師器	200			外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ	色調：にぶい黄褐色 胎土：2～9mm大の小石と赤色粒子が混入し、砂粒を含む。	口縁部片、黒斑有
第39回	2	R65	S B03	高坏	土師器		15.9		外面：不明 内面：ヨコナデ	色調：褐色 胎土：赤色粒子が混入し、砂粒を含む。精選されている。	脚部
第39回	3	R82	S B04	甕	弥生式土器		10.4		外面：不明 内面：不明	色調：にぶい黄褐色 胎土：砂粒を含む。	底部
第39回	4	R58	S B05	甕	土師器	17.8			外面：ナデ 内面：ヘラケズリ	色調：灰黄褐色 胎土：細砂粒を含む。	口縁部片、柱穴内より出土
第39回	5	R79	S B08	坏	土師器	10.0			外面：不明 内面：ナデ	色調：にぶい黄褐色 胎土：赤色粒子が混入し、細砂粒を含む。	口縁部片
第39回	6	R76	S B09	甕	須恵器	8.6	5.2	5.7	外面：ヘラケズリ 内面：ヨコナデ	色調：にぶい黄褐色 胎土：1～3mm大の白色粒子が混入し、精選されている。	定形、外面にヘラ書き有
第39回	7	R59	S B10	甕	弥生式土器	25.3			外面：ハケメ 内面：ハケメ	色調：灰黄褐色 胎土：1～12mm大の白色小石と赤色粒子が混入し、精選されている。	底部、外面に黒斑有
第39回	8	R60	S B10	埴	須恵器		9.5		外面：ナデ 内面：ナデ	色調：灰色 胎土：1～6mm大の白色粒子が混入し、精選されている。	底部片、高台付、柱穴内より出土
第39回	9	R63	S B10	甕	須恵器				外面：縞目タタキ 内面：青海波状紋	色調：灰白色 胎土：精選されている。	胴部
第39回	10	R64	S B10	甕	須恵器				外面：タタキ 内面：青海波状紋	色調：灰色 胎土：白色粒子が混入し、精選されている。	胴部
第39回	11	R75	S B10	甕	土師器	17.7	8.8	20	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	色調：褐色 胎土：赤色粒子が混入し、精選されている。	つまみ部
第39回	12	R62	S B10	甕	土師器				外面：ヘラケズリ 内面：ヘラケズリ	色調：にぶい黄褐色 胎土：2～6mm大の小石が混入し、砂粒を含む。	底部
第39回	13	R61	S B10	把手(瓠)	土師器				外面：ナデ 内面：	色調：褐色 胎土：砂粒を含む。	把手部分
第39回	14	R70	S B10	把手(瓠)	土師器				外面：ナデ 内面：	色調：にぶい黄褐色 胎土：細砂粒を含む。	把手部分、一部黒斑有
第39回	15	R81	S B10	移動式カマド	土師器				外面：カメ後ヘラケズリ 内面：ケズリ	色調：黄褐色 胎土：赤色粒子が混入し、砂粒を含む。	底部
第39回	16	R73	S B14	高坏	土師器		13.2		外面：不明 内面：不明	色調：褐色 胎土：2～6mm大の砂粒と赤色粒子が混入する。	脚部
第40回	1	R71	S K09	甕	弥生式土器	27.8			外面：不明 内面：不明	色調：褐色 胎土：1～2mm大の小石が混入し、細砂粒を多く含む。	口縁部
第40回	2	R77	S K17	甕	弥生式土器	23.9			外面：不明 内面：不明	色調：にぶい黄褐色 胎土：1～10mm大の小石が多く混入し、砂粒を含む。	口縁部
第40回	3	R78	S K17	坏	土師器	11.2	8.0	3.1	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	色調：浅黄褐色 胎土：細砂粒を含む。	
第40回	4	R69	S K19	甕	須恵器	12.6	4.1	3.2	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	色調：灰色 胎土：精選されている。	
第41回	1	R08	S D01	甕	須恵器	13.5			外面：カキ目・ナデ 内面：ナデ	色調：灰色 胎土：精選されている。	1/4
第41回	2	R09	S D01	甕	須恵器	14.3		2.1	外面：カキ目・ナデ 内面：ナデ	色調：灰色 胎土：精選されている。	1/5
第41回	3	R10	S D01	甕	須恵器	13.2			外面：回転ヘラケズリ・ナデ 内面：ナデ	色調：灰白色 胎土：白色粒子が混入し、精選されている。	1/5
第41回	4	R12	S D01	甕	須恵器	12.9	2.95	1.2	外面：回転ヘラケズリ・ナデ 内面：ナデ	色調：灰色 胎土：白色粒子が混入し、精選されている。	1/2
第41回	5	R11	S D01	甕	須恵器	14.0			外面：回転ヘラケズリ・ナデ 内面：ナデ	色調：灰色 胎土：白色粒子が混入し、精選されている。	1/4
第41回	6	R37	S D01	坏	須恵器	13.1	9.2	5.2	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	色調：灰色 胎土：2mm大の小石が混入し、精選されている。	1/4、高台付
第41回	7	R50	S D01	坏	須恵器	12.4		4.4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	色調：灰白色 胎土：精選されている。	1/4、高台付
第41回	8	R52	S D01	坏	須恵器	9	5.4	3.5	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	色調：灰色 胎土：白色粒子が多く混入し、精選されている。	1/4、高台付、小型

表1 石町遺跡 SB・SK・SD 出土土器観察表①

神岡	番号	実測 番号	出土 遺構	器種	種別	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調 査	色調・胎土	備 考
第41図	9	R13	S D01	埴	須恵器	130	92	5.45	外面：ナデ・自然輪がかかる 内面：ヨコナデ	色調：灰色 胎土：白色粒子が混入し、精選されている。	1/5、高台付、金属 器模倣品
第41図	10	R14	S D01	壺	須恵器	22			外面：タタキ目 内面：青海波状紋	色調：灰色 胎土：白色粒子が混入し、精選されている。	口縁部
第41図	11	R33	S D01	高坏	須恵器	140			外面：回転ヘラズリ 内面：ヨコナデ	色調：灰色 胎土：1～3mm大の白色粒子が混入し、精選されている。	口縁部
第41図	12	R05	S D01	甕	須恵器				外面：タタキ目 内面：青海波状紋	色調：灰色 胎土：白色粒子が混入し、精選されている。	細片
第41図	13	R06	S D01	甕	須恵器				外面：細子目タタキ 内面：タタキ目	色調：灰色 胎土：2mm大の石粒が混入し、精選されている。	細片
第41図	14	R04	S D01	甕	須恵器				外面：タタキ目 内面：青海波状紋	色調：灰色 胎土：精選されている。	細片
第41図	15	R03	S D01	甕	須恵器				外面：細子目タタキ 内面：青海波状紋	色調：灰色 胎土：白色粒子が混入し、精選されている。	細片
第42図	16	R48	S D01	坏	土師器	160		3.8	外面：不明 内面：ナデ	色調：褐色 胎土：1～9mm大の小石が混入し、赤色粒子と砂粒を含む。	3/4
第42図	17	R53	S D01	坏	土師器	140			外面：不明 内面：不明	色調：にぶい褐色 胎土：赤色粒子が混入し砂粒を含む。	口縁部
第42図	18	R19	S D01	坏	土師器	15.8	4.5	4.5	外面：不明 内面：不明	色調：褐色 胎土：砂粒が含まれる。	ほぼ変形
第42図	19	R25	S D01	坏	土師器	160			外面：不明 内面：不明	色調：褐色 胎土：赤色粒子が混入し砂粒を含む。	1/6
第42図	20	R18	S D01	坏	土師器	18			外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ・ナデ	色調：褐色 胎土：3mm大の小石が混入し、赤色粒子と砂粒を含む。	1/5
第42図	21	R17	S D01	坏	土師器		7.3		外面：不明 内面：不明	色調：褐色 胎土：赤色粒子が混入し砂粒を含む。	底部
第42図	22	R38	S D01	埴	土師器	16			外面：ヘラズリ 内面：不明	色調：褐色 胎土：赤色粒子が混入し砂粒を含む。	口縁部、1/7、外面 黒塗布
第42図	23	R15	S D01	壺	土師器	12.2			外面：ヘラナデ・一部磨き 内面：ヘラズリ	色調：褐色 胎土：2mm大の小石粒が混入し、砂粒を含む。	1/3
第42図	24	R36	S D01	甕	土師器	18.3			外面：ヨコナデ 丹塗り 内面：ヨコナデ	色調：浅黄褐色 胎土：砂粒を含む。	口縁部：外面赤色顔 料塗布
第42図	25	R16	S D01	甕	土師器	13.9			外面：ハケメ 内面：ヘラズリ	色調：褐色 胎土：2mm大の小石粒が混入し、砂粒を含む。	口縁部
第42図	26	R29	S D01	甕	土師器	30.2			外面：ヘラズリ 内面：ヘラズリ	色調：にぶい黄褐色 胎土：2mm大の小石を多く含み、赤色粒子と砂粒を含む。	口縁部
第42図	27	R30	S D01	甕	土師器	24.5			外面：ハケメ 内面：ヘラズリ	色調：灰黄褐色 胎土：2mm大の白色粒子が混入し、砂粒を含む。	口縁部
第42図	28	R27	S D01	甕	土師器	22.4			外面：ハケメ 内面：ヘラズリ	色調：にぶい黄褐色 胎土：1～7mm大の小石粒が混入し、赤色粒子と砂粒を含む。	口縁部
第42図	29	R40	S D01	甕	土師器	14.1			外面：ヘラズリ 内面：ヘラズリ	色調：にぶい黄褐色 胎土：2～7mm大の小石が混入し、砂粒を含む。	口縁部
第42図	30	R43	S D01	甕	土師器	26.6			外面：ハケメ 内面：ヘラズリ	色調：明赤褐色 胎土：2～12mm大の白色粒子が混入し、赤色粒子と砂粒を含む。	口縁部
第43図	31	R35	S D01	高坏	土師器	14.2			外面：ナデ 丹塗り 内面：ナデ	色調：褐色 胎土：細砂粒を含む。	坏部：外面赤色顔 料塗布
第43図	32	R23	S D01	高坏	土師器	19.8			外面：不明 内面：ナデ	色調：褐色 胎土：赤色粒子と砂粒を含む。	口縁部
第43図	33	R24	S D01	高坏	土師器	21.8			外面：ヘラ調整 内面：ナデ	色調：褐色 胎土：赤色粒子と砂粒を含む。	口縁部
第43図	34	R34	S D01	高坏	土師器		11.4		外面：ナデ 丹塗り 内面：ヨコナデ・ハケメ	色調：褐色 胎土：1～4mm大の白色粒子が混入し、砂粒を含む。	脚部：外面赤色顔 料塗布
第43図	35	R22 ①・②	S D01	甕	土師器	30			外面：ハケメ 内面：ヘラズリ	色調：にぶい黄褐色 胎土：2～10mm大の小石粒が混入し、砂粒を含む。	同一個体 ①口縁 部・②胴部取手付
第43図	36	R44	S D01	甕	土師器	30.1			外面：ハケメ 内面：ヘラズリ	色調：にぶい黄褐色 胎土：1～5mm大の小石粒が混入し、赤色粒子と砂粒を含む。	口縁部、胴部・取手

表1 石町遺跡 SD 出土土器観察表②

標図	番号	実測 番号	出土 遺構	器種	類別	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調 査	色調・胎土	備 考
第43図	37	R42	S D01	甗 (把手)	土師器				外面: ナデ 内面: ヘラケズリ	色調: 褐色 胎土: 2~3mm大の白色石が混入し、砂粒を含む。	把手部分
第43図	38	R46	S D01	甗 (把手)	土師器				外面: ナデ 内面: ヘラケズリ	色調: ぶい黄褐色 胎土: 2~6mm大の小石が混入し、赤色粒と砂粒を含む。	把手部分
第43図	39	R41	S D01	甗 (把手)	土師器				外面: ナデ 内面: ヘラケズリ	色調: 褐色 胎土: 赤色粒と砂粒を含む。	把手部分
第44図	40	R83	S D01	移動式 カマド	土師器				外面: ハケメ 内面: ケズリ	色調: 黒色 胎土: 赤色粒が混入し、砂粒を含む。	底部、外面全周黒色
第44図	41	R84	S D01	移動式 カマド	土師器				外面: ハケメ 内面: ケズリ	色調: 褐色 胎土: 2mm大の石粒が混入し、砂粒を含む。	底部
第44図	42	R85	S D01	移動式 カマド	土師器				外面: 縦方向のハケメ 内面: 不明	色調: 黄灰色 胎土: 1~4mm大の石粒が混入し、砂粒を含む。	全面外面黒色
第44図	43	R86	S D01	移動式 カマド	土師器				外面: ハケメ 内面: ケズリ	色調: ぶい黄褐色 胎土: 1~3mm大の石粒と赤色粒が混入し、砂粒を含む。	底部、外面一部黒色
第44図	44	R45	S D01	甗	土師器				外面: 不明 内面: ナデ	色調: ぶい黄褐色 胎土: 細砂粒を含む。	口縁部
第44図	45	R32	S D01	甗	土師器				外面: ハケメ 内面: ヘラエズリ	色調: 褐色 胎土: 白色粒が多く混入し、赤色粒と砂粒を含む。	口縁部
第44図	46	R21	S D01	甗	土師器				外面: ヘラケズリ 内面: ナデ	色調: ぶい黄褐色 胎土: 2~6mm大の小石が多く混入し、赤色粒と砂粒を含む。	口縁部、胴部「〇」 刻印有
第44図	47	R28	S D01	甗	土師器				外面: ハケメ 内面: ハケメ	色調: ぶい黄褐色 胎土: 2~7mm大の小石粒が混入し、赤色粒と砂粒を含む。	口縁部
第44図	48	R39	S D01	甗	土師器				外面: ヘラケズリ 内面: ヘラケズリ	色調: ぶい黄褐色 胎土: 2~5mm大の小石が混入し、砂粒を含む。	口縁部
第44図	49	R26	S D01	甗	土師器				外面: 不明 内面: 不明	色調: ぶい黄褐色 胎土: 1~8mm大の小石が混入し、赤色粒と砂粒を含む。	口縁部、外面黒色の 塗布有
第44図	50	R31	S D01	甗	土師器				外面: ハケメ 内面: ヘラケズリ	色調: ぶい褐色 胎土: 2~6mm大の小石粒が混入し、赤色粒と砂粒を含む。	口縁部
第45図	51	R49	S D02	甗	弥生式 土器		9.1		外面: ハケメ 内面: ナデ	色調: ぶい黄褐色 胎土: 1~9mm大の小石が混入し、砂粒を含む。	底部
第45図	52	R80	S D03	甗	須恵器	14.0			外面: ココナデ 内面: ココナデ	色調: 灰白色 胎土: 精選されている。	口縁部
第45図	53	R54	S D03	甗	須恵器				外面: ココナデ 内面: ココナデ	色調: 灰白色 胎土: 精選されている。	口縁部
第45図	54	R55	S D04	甗	須恵器		8.1		外面: ココナデ 内面: ナデ	色調: 灰白色 胎土: 1~4mm大の小石が混入し、精選されている。	底部、高台付
第45図	55	R56	S D04	甗	土師器	10.0			外面: ヘラ調整 内面: ナデ調整	色調: ぶい黄褐色 胎土: 赤色粒を含み精選されている。	口縁部
第45図	56	R02	P05	甗	須恵器				外面: 縞目タタキ 内面: 青海流状紋	色調: 灰白色 胎土: 精選されている。	細片
第45図	57	R66	P10	甗	須恵器		10.6		外面: ココナデ 内面: ナデ	色調: 灰白色 白色粒が多く混入し、精選されている。	底部、高台付
第45図	58	R01	P19	甗	須恵器				外面: 縞目タタキ 内面: 青海流状紋	色調: 灰白色 白色粒が混入し、精選されている。	細片
第45図	59	R67	P99	甗	土師器				外面: 不明 内面: ナデ	色調: ぶい黄褐色 赤色粒が混入し、精選されている。	口縁部
第45図	60	R72	P117	甗	土師器				外面: 不明 内面: 不明	色調: ぶい黄褐色 胎土: 精選されている。	口縁部
第45図	61	R68	P120	甗	弥生式 土器	26.1			外面: ハケメ 内面: 不明	色調: ぶい黄褐色 胎土: 1~3mm大の小石が混入し、砂粒が含まれる。	口縁部

表1 石町遺跡 SD・ビット 出土土器観察表③

押図 番号	遺物 番号	実測 番号	出土 遺構	器種	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
第46図	1	R74	SB10	土鉢	土師器	5.6	2.2	2.2		完形、細砂粒を含む、 カマド内
第46図	2	R87	SD01	不明	鉄	4.6	8.5	0.9	6.0	片側は空洞
第46図	3	R88	SD02	石炭	サヌカイト	1.5	1.3	3	0.5	

表2 石町遺跡 SB・SD出土遺物観察表

また、今回遺物の再確認により、SB10（堅穴住居）とSD01から移動式カマドと思われる遺物が確認された。

SB10については、破片が1点出土しており発見当初瓦とされていたが、堅穴住居から瓦が出土することは現実として考えにくく、今回移動式カマドであることがわかった。しかし、SB10には造りつけのカマドが付設されており、第2のカマドとして移動式カマドが使用されたのか用途については不明である。

SD01については、破片が4点出土している。前述した様に本遺跡中最も多く出土しており、堅穴住居や掘立柱建物と切り合っているため、別の遺構のものが混入した可能性も考えられる。

SB10とSD01から出土した移動式カマドは、外面の調整方法が異なっているため別固体であると思われる。移動式カマドについては、これまで八女地区では出土例が非常に少なく、八女市蒲原で発掘調査が実施された惣津町遺跡の溝から出土した完形品のみに留まる。

【参考文献】

- 大塚恵治 1999『惣津町遺跡』八女市文化財調査報告書 第54集 八女市教育委員会
 石野博信 1990『日本原始・古代住居の石究』吉川弘文館
 大川清・鈴木公雄・上楽善通編 1996『日本土器事典』雄山閣出版株式会社

(2) 鳥井遺跡

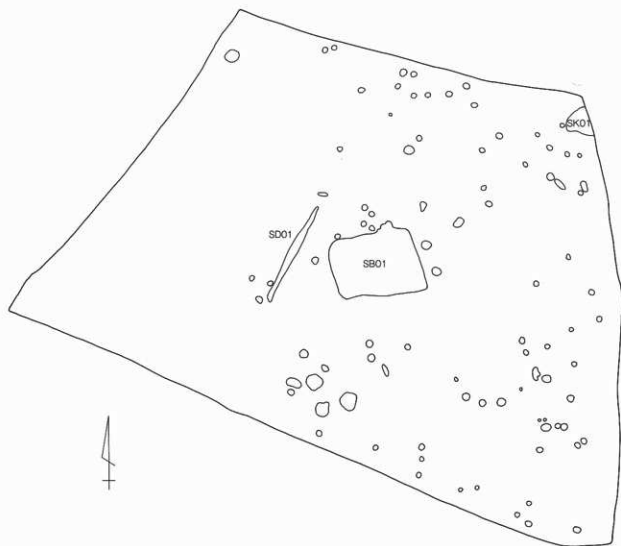
①発掘調査の概要

本遺跡は、八女市酒井田字鳥井に所在しており、平成3年12月21日から平成4年3月10日までの期間発掘調査を実施した。

本遺跡は、石町遺跡の北東650mに位置し、酒井田地区の最北に位置する。北側は高塚地区で東側には宮野地区がある。本遺跡の南側は酒井田集落が広がっている。標高は27m前後で、東側に矢部川が東西に流れており標高は東側から西側に低くなっている。本遺跡は、酒井田遺跡群の中にあり、南東には数々の遺跡が見つかっている。

今回の発掘調査では、北側をA地点、その南側をB地点、水田を挟んで西側をC地点として実施した。

発掘調査の結果、奈良時代のカマドを付設する竪穴住居と土塋、溝、ピット等が多数発見された。



第47図 鳥井遺跡A地点 遺構配置図 [1/200]

②遺構と遺物

A地点

本調査区は、酒井田遺跡群の中にあり標高27.11m前後で、東側には南北方向に集落から高塚地区へ通じる道路が通っている。200m南東には、長田遺跡2次調査等があり、平安時代から鎌倉時代にかけての集落跡が見つかっている。

本遺跡の周辺では発掘調査が行われていないためその他の遺跡については確認できていない。今回の発掘調査の結果、奈良時代の竪穴住居1軒、土壌1基、溝1条が検出された。

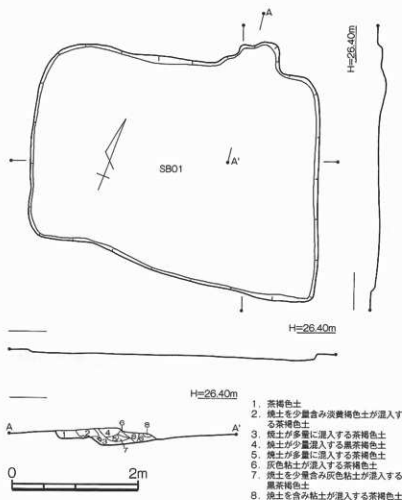
竪穴住居（SB）

鳥井遺跡A地点では、竪穴住居は1軒のみ検出されており、住居の北側（長辺）東寄りの部分に突出するカマドが付設されていた。

SB01（第48図・63図、図版8・9・12）

調査区のほぼ中央から検出された。規模は東西4.5m、南北3.5mで深さは約10cmである。面積は、15.75㎡である。柱穴は、確認されなかった。遺構はかなり削平されているため、南側は確認できていない。

住居北側の東寄りの部分に、突出するカマドが付設されていた。カマド内は掘りくぼめられており、埋土が9層確認された。1層目は茶褐色土、2層目は焼土と淡黄褐色土が混入する茶褐色土、3層目は焼土が多量に混入する茶褐色土、4層目は焼土が少量混入する黒茶褐色土、5層目は焼土が多量に混入する茶褐色土、6層目は灰色粘土混入する茶褐色土、7層目はごく少量の焼土と灰色粘土混入する黒茶褐色土、8層目は焼土が混入する茶褐色土、9層目は焼土と粘土が混入する茶褐色土であった。特に床に近い部分に多量の焼土が確認された。遺物としては、カマド内から土師器の埴（63図1）と甗（63図2～3）が出土しており、その他にも外側に煤の付着した長胴甕の破片が出土している。



第48図 鳥井遺跡A地点 竪穴住居（SB01）実測図 [1/60]

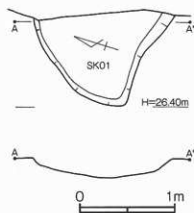
土壌 (SK)

鳥井遺跡A地点では、土壌は1基検出された。

SK01 (第49図、図版9)

調査区北東の角に位置する。遺構の東側は、調査区外であるため規模については不明である。深さは19cmである。

遺物は、出土していない。



第49図 鳥井遺跡A地点 土壌 (SK01)実測図[1/40]

溝 (SD)

鳥井遺跡A地点では、溝は1条検出された。

SD01 (第50図、図版8)

調査区中央にあり、SB01の西側に位置する。

南北方向に延びているが、残りが悪く両端が途切れている。残存する長さは5.7m、最大幅は0.5mで深さは10cmである。

遺物は、出土していない。

B地点

本遺跡は、鳥井遺跡A地点の南側に隣接する。調査の結果土壌が9基、溝が1条、その他ピットが多数検出された。

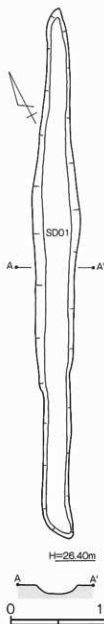
遺物はピットからのものが多く出土しているが、細片であるため図示出来ない。須恵器や土師器、内黒土器が出土しており、A地点の続きと考えられる。

土壌 (SK)

鳥井遺跡B地点では、9基検出された。

SK01 (第52図、図版9)

調査区北側で検出された。平面形は円形で、径は1.1mである。東側が段になっており、深さは浅いところで30cm、深いところで50cmである。



第50図 鳥井遺跡A地点 溝 (SD01)実測図[1/40]

遺物は、出土していない。

SK02 (第53図、図版9)

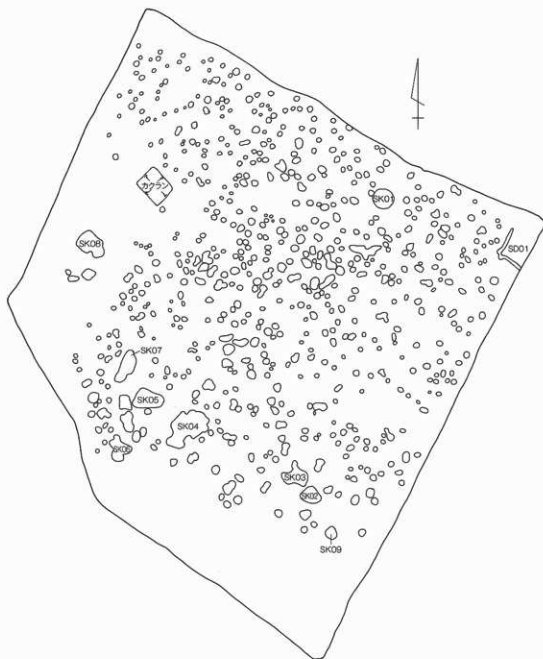
調査区南側で検出された。平面形は不整楕円形である。規模は、長さが90cm、幅が最大で85cmである。床面は平坦で、深さが12cmとかなり浅い。

遺物は、出土していない。

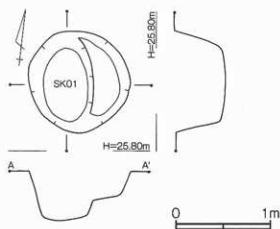
SK03 (第54図、図版9)

調査区の南側にあり、SK02の北側に位置する。平面形は不整形で長軸が1.4m、短軸が最大で1.15mである。床面は平坦で、西側にピットを有する。深さは5cmと浅い。

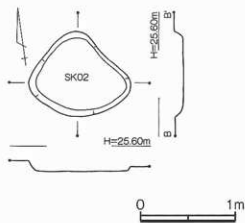
遺物は、出土していない。



第51図 鳥井遺跡B地点 遺構配置図 [1/200]



第52図 鳥井遺跡B地点 土坑
(SK01)実測図[1/40]



第53図 鳥井遺跡B地点 土坑
(SK02)実測図[1/40]

SK04 (第55図、図版9)

調査区の西側に位置する。平面形は不整形で、長さは2.6m、幅は最大で1.5mである。西側と東側が深くなっている。深さは20cm～30cmである。

遺物は、出土していない。

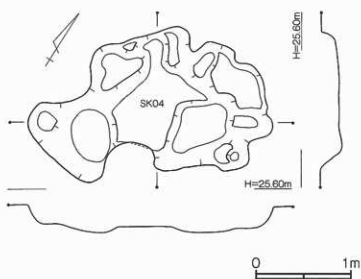
SK05 (第56図、図版9)

調査区の西側にあり、SK04の北側に位置する。長さが1.35m、幅が1.05mである。床面は平坦であるが、西側と東側にピットを有する。深さは5cmと浅い。

遺物は、出土していない。



第54図 鳥井遺跡B地点 土坑
(SK03)実測図[1/40]



第55図 鳥井遺跡B地点 土坑(SK04)実測図[1/40]

SK06 (第57図、図版9)

調査区西側にあり、SK04の西側に位置する。平面形は不整形で長さが1.35m、幅が1.05mである。床面は平坦で、深さは5cmと浅い。

遺物は出土していない。

SK07 (第58図)

調査区西側にあり、SK05の北側に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸1.75m、短軸70cmである。床面は平坦であるが、南側にピットを有する。深さは7cmと浅い。

遺物は、出土していない。

SK08 (第59図、図版9)

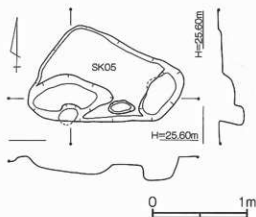
調査区西側にあり、SK07の北側に位置する。平面形は隅丸長方形に近い。長軸1.55m、短軸1mで、床面は平坦であるが、北側にピットを有する。深さは20cmである。埋土は3層確認している。

遺物は、出土していない。

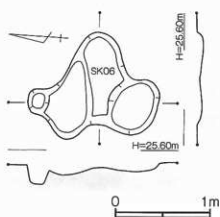
SK09 (第60図)

調査区南側にあり、SK02の南側に位置する。平面形は楕円形である。長軸0.65m、短軸0.55mである。深さは8cmと浅い。

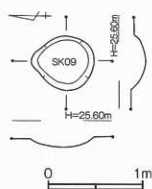
遺物は、出土していない。



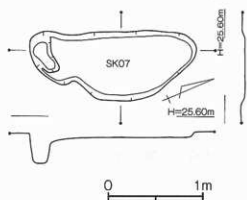
第56図 鳥井遺跡B地点 土壌 (SK05)実測図[1/40]



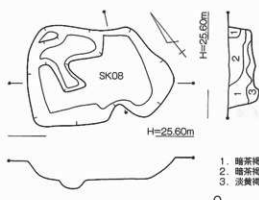
第57図 鳥井遺跡B地点 土壌 (SK06)実測図[1/40]



第60図 鳥井遺跡B地点 土壌 (SK09)実測図 [1/40]



第58図 鳥井遺跡B地点 土壌 (SK07) 実測図 [1/40]



第59図 鳥井遺跡B地点 土壌 (SK08) 実測図 [1/40]

1. 暗茶褐色土混入する淡黄褐色土
2. 暗茶褐色土
3. 淡黄褐色土

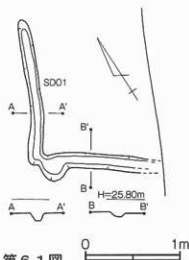
溝 (SD)

SD01 (第61図)

調査区の北東角に位置する。東側から北側に直角に曲がる。

全長は2.9mで、幅は12cmである。東側は調査区域外で北側は残りが悪く途切れているため遺構の全容は不明である。

遺物は、出土していない。

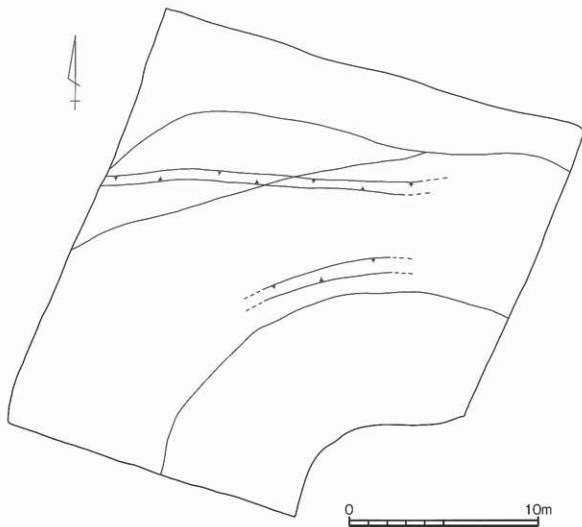


第61図

鳥井遺跡B地点 土
壕 (SD01) 実測図
[1/40]

C地点

鳥井遺跡A地点の北西50mに位置し、約500㎡を調査したが遺構としては検出できなかった。地山が砂質土で北側から南側にかけて傾斜している。以下平面図を掲載する。



第62図 鳥井遺跡C地点 遺構配置図 [1/200]



第63図 鳥井遺跡A地点 竪穴住居（SB01）出土土器実測図〔1/4〕

神岡	番号	実測 番号	出土 遺構	器種	種別	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調査	色調・胎土	備考
第64図	1	R01	SB01	埴	土師器	16			外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	色調：褐色 胎土：細砂粒を含み、7mm大の石 葉が混入する。	カマド内より出土
第64図	2	R02	SB01	甗	土師器				外面：ヨコナデ 内面：ヘラケズリ	色調：にぶい褐色 胎土：2mm大の砂粒を含み、角閃 石が混入する。	カマド内より出土
第64図	3	R03	SB01	甗	土師器		12		外面：ハケ目・ヨコナデ 内面：ヘラケズリ・ヨコナデ	色調：にぶい黄褐色 胎土：細砂粒を含む。	カマド内より出土

表3 鳥井遺跡A地点 SB 出土土器観察表

③まとめ

今回の発掘調査では、酒井田地区の最北に位置する鳥井遺跡の調査を実施し、奈良時代の竪穴住居1軒と土壌、溝等が見つかった。A地点の南側にはB地点が隣接しており、土壌と無数のビットが確認されているが、竪穴住居は見つかっていない。そのため集落は、北側にかけて広がっていたのではないかと考えられる。

今回A地点で検出された竪穴住居は、石町遺跡の竪穴住居と平面プランやカマドの付設状況が類似しており、時期的に同じではないかと思われるが、出土遺物が少なく確証は得られていない。

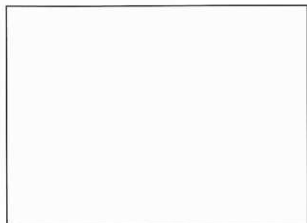
またB地点は、A地点と同遺跡と考えられると前述したが、ビット内から内黒土器等が出土していることから、若干時代が下るものと思われる。

酒井田地区における奈良時代の遺跡の分布については、今後の発掘調査に期待したい。

図 版

凡例

遺物写真のキャプションは、以下の通りである。



遺構名

図番号



(1) 石町遺跡 全景 (東から)

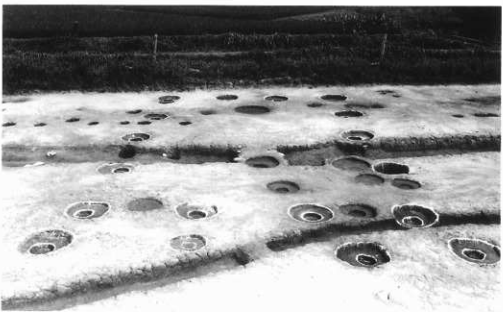
図版 2



(1)
石町遺跡
SB01
(北から)



(2)
石町遺跡
SB02
(南から)
SK19 (手前)



(3)
石町遺跡
SB03
(南から)

(1)

石町遺跡

SB04

(南から)



(2)

石町遺跡

SB05

(南から)



(3)

石町遺跡

SB13

(東から)



図版 4



(1)
石町遺跡
SB06
(西から)



(2)
石町遺跡
SB07
(南から)



(3)
石町遺跡
SB08
(南から)

(1)

石町遺跡

SB09

(西から)



(2)

石町遺跡

SB10

(西から)



(3)

石町遺跡

SB11

(南から)



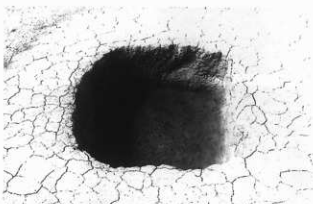
図版 6



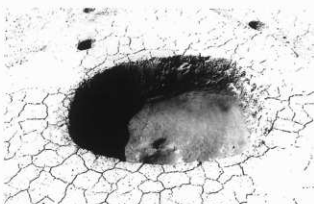
(1) 石町遺跡 SB09かまど(西から)



(2) 石町遺跡 SK01(北東から)



(3) 石町遺跡 SK02(北東から)



(4) 石町遺跡 SK03(北から)



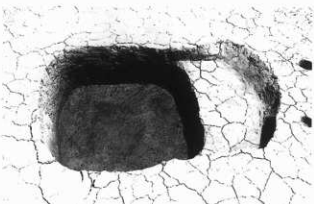
(5) 石町遺跡 SK04(北から)



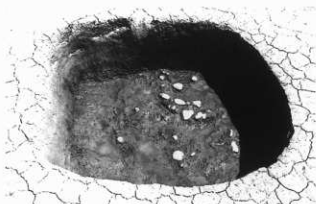
(6) 石町遺跡 SK05(北から)



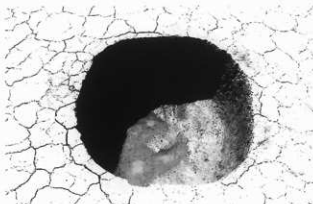
(7) 石町遺跡 SK08(西から)



(8) 石町遺跡 SK09(北から)



(1) 石町遺跡 SK10 (北から)



(2) 石町遺跡 SK11 (西から)



(3) 石町遺跡 SK12 (南から)



(4) 石町遺跡 SK13 (南から)



(5) 石町遺跡 SK14 (西から)



(6) 石町遺跡 SE02 (北東から)



(7) 石町遺跡 SD01 遺物出土状況



(8) 石町遺跡 作業風景

図版 8



(1)
鳥井遺跡A
全景
(西から)



(2)
鳥井遺跡A
SB01
(東から)



(3)
鳥井遺跡A
SD01
(東から)



(1) 鳥井遺跡A SB01かまど(南から)



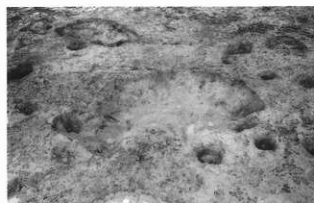
(2) 鳥井遺跡A SK01(西から)



(3) 鳥井遺跡B SK01(北から)



(4) 鳥井遺跡B SK02、03(北東から)



(5) 鳥井遺跡B SK04(南東から)



(6) 鳥井遺跡B SK05(南から)



(7) 鳥井遺跡B SK06(南から)



(8) 鳥井遺跡B SK08(南西から)

図版 10



(1) 石町SB09



第39図-6 (2) 石町SB04・08・05

上第39図-3.5、下4



(3) 石町SB03

上第39図-1、下2 (4) 石町SB10



第39図-8 (5) 石町SB10



第39図-11



(6) 石町SB10 上第39図-14.13下7 (7) 石町SB10



第39図-15 (8) 石町SB14



第39図-16



(9) 石町SD01

前第41図-1.3.2、後5.4



(10) 石町SD01

前第41図-7.11.8、後6.9



(1) 石町SK09・19・17 上第40図-1.4、下2.3 (2) 石町SD01

第42図-16



(3) 石町SD01 前第43図-31. 33. 32後第42図-17. 20 (4) 石町SD01

第42図-18



(5) 石町SD01

第41図-10 (6) 石町SD01



第42図-23 (7) 石町SD01 上第42図-22、下21



(8) 石町SD01 上第42図-24、下30 (9) 石町SD01 上第42図-29、下26 (10) 石町SD01

第43図-34



図版 12



(1) 石町SD01 上第44図-46. 47、下第42図-28. 25



(2) 石町SD01 第43図-上35-1. 下35-2



(3) 石町SD01

第43図-38. 37. 39



(4) 石町SD01

第43図-36



(5) 石町SD01

上第44図-42. 41、下40. 43



(6) 石町SD03・04・P10 上第45図-53. 54、下52. 57



(7) 石町SB10・SD01・SD02

第46図-1. 2. 3



(8) 鳥井A SB01

上第64図-1、下3. 2

報 告 書 抄 録

ふりがな	やめしないいせきぐん							
書名	八女市内遺跡群 ⅠⅠ							
副書名	福岡県八女市酒井田所在遺跡の調査報告書							
巻次								
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第118集							
編著者名	中川 寿賀子							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	834-8585 福岡県八女市本町647 TEL 0943-23-1982							
発行年月日	西暦 2017年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
平成3年度調査 いしもち いせき 石町遺跡	ふくかけん 福岡県 よめ しきかい た 八女市酒井田	402109		33° 11′ 40″	130° 33′ 18″	1991.6.14～ 1991.09.06	3,200㎡	圃場整備
とりいいいせき 鳥井遺跡 A地点 B地点 C地点	ふくかけん 福岡県 よめ しきかい た 八女市酒井田			33° 11′ 56″	130° 33′ 37″	1991.12.21～ 1992.03.10	1,850㎡	圃場整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
いしもち いせき 石町遺跡	集落	弥生時代 奈良時代	土壇 竪穴住居・掘立柱建物 井戸・溝		弥生式土器・須恵器・土師器・土製品・鉄製品・石器		移動式カマド	
とりいいいせき 鳥井遺跡	集落	奈良時代	竪穴住居・土壇・溝		土師器・内黒土器			
要約	石町遺跡は、弥生時代中期から古墳時代前期の集落である宮ノ前遺跡の東側200mに位置し、弥生時代から奈良時代にかけての遺構が見つかった。弥生時代の遺構は、中期以降と考えられる貯蔵穴群が検出されており、炭化米を含む炭化物や焼土が出土した。また、奈良時代の遺構はカマドを付設する竪穴住居や掘立柱建物、溝が検出された。特に竪穴住居や溝から移動式カマドが出土した。 鳥井遺跡は、酒井田地区の最北に位置しA地点から奈良時代の竪穴住居が検出され、本地区における集落の広がりが確認された。							

八女市内遺跡群 11

八女市文化財調査報告書
第 118 集

平成29年 3 月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647

印刷 橋爪印刷
八女市吉田1899-1